

神田外語大学

グローバル・リベラルアーツ学部年報

2022（令和4）年度

令和5年9月

「グローバル・リベラルアーツ学部年報 2022」刊行にあたって

「グローバル・リベラルアーツ学部年報」(以下「年報」)は、2021年4月に設置されたグローバル・リベラルアーツ学部(以下「本学部」)について、その設置構想から学年進行(4年間)期間における教育活動、研究活動、国際交流活動、施設・設備及び管理運営の状況等の記録を取りまとめるものです。

この年報では、本学部の文部科学省への届出の際に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載の内容に基づき、その進捗(自己点検・評価の観点を含む)を主な内容として記録して行きます。

2022年度においては、以下のような取り組みを中心的行いました。

4月1日に入学式を挙行し、81名の2期生を受け入れるとともに、GLAキャリア・メンター制度がスタートした。またFreshman Orientation Camp 2022が4月5日から4月11日にかけて、宿泊研修(Freshman Orientation Camp(於:ブリティッシュヒルズ))で行ない、同月11日から前期の授業を開始しました。

3年次後期の必修となっているニューヨーク州立大学(SUNY)への長期留学プログラムのオリエンテーションを、6月6日から9日、10月18日から19日の2回、第一期生(2年次生)全員を対象として開催した。

今年度の海外スタディ・ツアーは7月の渡航前に、6月下旬から、福島県にある本学の国際研修センター/ブリティッシュヒルズ及び本学にて、リトアニア、インド、マレーシア・ボルネオ、エルサレムの4地域の協定校とオンラインでつなぎ、現地の授業を受講する国内研修を実施しました。

7月初旬には、上記の4カ国・地域からいずれか1カ所に渡航する約2週間のフィールドワークを実施しました。

入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに掲げる能力を確認するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、海外経験特別選抜、一般選抜、共通テストプラス入試及び共通テスト利用入試の6つの方式で入学者選抜を実施し、67名(令和4年度81名、令和3年度59名)の入学者を得ました。

以上のような取り組みを大学改革室が取りまとめ、ここに刊行する運びとなりました。

ご協力いただいた皆様のお陰であること、心から御礼申し上げます。

2023年9月

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部
学部長 金口 恭久

目次

I. 理念・目的	1
II. 学生受入れ（入学者選抜）の取組	3
1. 入学者選抜の方法等について	
2. 入学者選抜の状況について	
III. 教育課程編成の取組	10
1. 教育課程の編成について	
2. 教員の組織体制について	
IV. 学生支援の取組	34
1. 学習支援の取組について	
2. キャリア支援の取組について	
V. 管理運営の取組	42
1. 情報公表の取組について	
2. 教育内容等の改善を図るための取組について	
3. 管理・運営体制について	
4. 施設・設備について	

I. 理念・目的

2021年4月に設置された、グローバル・リベラルアーツ学部設置の趣旨・必要性は、『文部科学省に設置届出の際に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」』（以下「設置の趣旨等を記載した書類」という。）に次のとおり記載している。

2013年5月の教育再生実行会議の提言「これからの大学教育等の在り方について（第三次提言）」においては、「社会の多様な場面でグローバル化が進む中、大学は、教育内容と教育環境の国際化を徹底的に進め世界で活躍できるグローバル・リーダーを育成すること、グローバルな視点をもって地域社会の活性化を担う人材を育成すること」が求められた。

また、2019年5月の同会議の提言「技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革について（第十一次提言）」においても、人、物、情報が国境を越えて行き交うグローバル化が急激に進展し、Society5.0の基盤となるAI、IoTなどの技術の開発に関する国際的な競争が激化する中で、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材を養成することが求められている。

一方、今、地球上では、依然として紛争は収束せず、安全保障や通商摩擦、宗教対立、移民・難民問題、地球温暖化や感染症をはじめとする様々な解決困難な課題が噴出ししている。他方、日本国内でも、アジア諸国を中心とするインバウンドの爆発的増大など、一昔前の欧米が基軸であった対外関係から考えられなかったようなグローバルな状況が展開している。

このような現代社会では、多様な価値観や考え方を相互に理解し尊重しながら、共生を図って行くことなしには、平和と安定、発展はあり得ないと考える。わずかなコミュニケーション・ギャップにより、意図しない、人類にとって悲惨な結果が起きることが否定できない。

直近の例として取り上げたいのが、今回、世界的な規模で発生した新型コロナウイルス感染症への対応である。当初、各国は国境を閉ざし人の出入りを制限するというグローバル化の価値観に逆行する対策でこの危機を乗り越えようとした。しかし、試行錯誤や科学的知見の積み重ねの結果、結局、世界に広がった感染症を収束に向かわせるためには、もはや一国だけでは対応では不十分である。仮に、特定の国だけで収束したとしても、他の国や地域で蔓延していれば、現代世界は成り立っていない。つまり、国や地域、体制などの違いを超えグローバルな視座に立って協力することが重要であることを人類は再認識し、現在、世界の潮流は再びそのような方向に向かおうとしている。

人類の想像を超えてめまぐるしく変化する現代世界において、本学は、建学の理念に深く想いを寄せ、高い英語力と幅広い教養を身につけ、海外での多様な活動を体験することで、グローバルな視座に立って発想し、世界と日本の困難な課題に立ち向かい、その平和の希求と繁栄の維持に主体的に貢献できる人材、言わば、「現代社会が求める真のグローバル人材」を育てることが使命と考え、この30年間で培ってきた教育をさらに深化させるとともに、新たな取組にチャレンジするための「グローバル・リベラルアーツ学部」（以下「本学部」という。）を2021年4月に開設することとした。

以上のような設置の趣旨・必要性に基づく本学部の教育研究の目的は、学則第2条第3項に次のように定めている。

グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科は、広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

2022年度の取り組み

GLA 学部主催 《平和シンポジウム 2023》あの日から1年
~Think and Take a Step toward Peace~を開催

2月21日、本学で平和シンポジウムを開催致しました。この日は、ロシアのプーチン大統領がウクライナ東部の「ドネツク人民共和国」「ルガンスク人民共和国」の独立承認の大統領令に署名をしてから1年が経った日にあたります。本学の建学理念「言葉は世界をつなぐ平和の礎」について理解を深めるとともに、「言葉と平和」に関する講演と対話から『平和』の意味について深く考え、平和へ向けたステップを踏むことを目的に、講演者と学生と一緒に平和について考えました。

シンポジウムは、和田春樹先生（東京大学名誉教授）による「ウクライナ戦争と朝鮮戦争—停戦を考える」と題した講演から始まりました。和田先生は、朝鮮戦争とウクライナ戦争を対比させながら、何が共通で何が異なるかを説明され、停戦にあたって多国家（NATO、EU、G7、ウクライナ、ベラルーシ、トルコ、中国、インド、国連）参加での協議が望まれると訴えました。

次の片柳真理先生（広島大学学術院教授）の「平和と言葉—攻撃する武器から支える力へ」と題した講演では、ロシアで「戦争」に反対する人々とのつながりの重要性が指摘され、平和はコミュニケーションによって築かれるので世界で起こっていることを知り、共感し、表現することが大事だとのメッセージが寄せられました。

最後に、和田先生片柳先生を交えて、本学グローバル・リベラルアーツ学部1・2年生7名とのパネルディスカッションが、行われました。はじめに、それぞれの学生が関心を持っている、環境・メディア・言語・教育・貧困などのテーマが、ウクライナ戦争とどう関わっているかの報告がありました。

お互いの疑問をぶつけあいながら理解を深める中で、ウクライナ戦争が遠い国でおこっている関係ないことではないことなどを共有することで、改めて『平和』について参加者1人1人が考える機会となりました。

2022年4月1日(金)	・令和4年度神田外語大学入学式を挙(於:幕張メッセ)し、81名の学生を受け入れ ・GLAキャリア・メンター制度スタート
4月5日(火)	Freshman Orientation Camp 2022(11日まで)
4月11日(月)	前期授業開始
6月6日(月)	ニューヨーク州立大学(SUNY)留学オリエンテーション(オンライン開催)(9日(木)まで12:15~13:00)
6月18日(土)	海外スタディ・ツアー(オンライン)@ブリティッシュヒルズ(7月1日まで)【研修地域:リトアニア、エルサレム】
6月19日(日)	海外スタディ・ツアー(オンライン)@幕張キャンパス(30日まで)【研修地域:インド、マレーシア/ボルネオ】
7月8日(金)	海外スタディ・ツアー(現地研修)(7月21日まで)【研修地域:リトアニア、エルサレム、インド、マレーシア/ボルネオ】
①8月5日~18日 ②8月19日~31日	KUIS GLA 学部生向けブリティッシュヒルズ インターンシップ(夏季特別プログラム)
9月2日(金)	「未来を担う若者の育成を目指す教育活動への助成活動」(三菱みらい育成財団)において、助成対象プログラムの「GLA学部のグローバル・チャレンジ・ターム」がグランプリを獲得
9月15日(木)	後期授業開始
9月27日(火)	大学院進学希望者向けガイダンス
10月2日(土)	総合型選抜<前期>を実施(合否通知発送11月1日)
10月13日(水)	GPSテスト報告会開催
10月18日(火)	ニューヨーク州立大学(SUNY)第二回留学オリエンテーション(オンライン開催)(19日(水)まで、各日12:15~13:00)
10月22日(金)	教員向けワークショップ開催(GLA学部教員向けPD)
10月28日(金)	ニューヨーク州立大学(SUNY)第二回留学オリエンテーションアンケートの実施(留学先調査、面談予約を含む)
11月3日(水)	「研究演習I」及び「ゼミ説明会」開催
11月5日(金)	GLA Community 全体会開催
11月12日(金)	大学院進学相談会開催
11月25日(木)	学校推薦型選抜/総合型選抜<後期>/海外経験特別選抜入試を実施(合否発表12月3日)
12月17日(土)	Tableau 企業分析 AWARD2022 の決勝大会がオンラインで開催され、「GLA データサイエンス」チームが準優勝
2022年1月8日(土)	ASC 主催スタートアップセミナー開催 GLA 学部から31名参加

1月28日(土)	ニューヨーク州立大学(SUNY)留学説明会(オンライン)
2月3日(金)	一般選抜〈前期〉入試(6日まで)を実施(合否発表2月12日)
2月21日(火)	GLA 学部主催 《平和シンポジウム 2023》あの日から1年 ~Think and Take a Step toward Peace~を開催
2月24日(金)	ニューヨーク州立大学(SUNY)留学 奨学金および授業料減免 説明会(オンライン開催)
3月15日(水)	ニューヨーク州立大学(SUNY)Purchase College に留学中の 日本人学生の方(1名)とのオンライン交流会
3月20日(月) 13:10 ~	ニューヨーク州立大学(SUNY)Oswego 校担当者来校に伴う交 流会の開催(対面、GLA コモンズ)

II. 学生受入れ（入学者選抜）の取組

本学部では、以下のとおり、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めている。

神田外語大学の理念は、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」である。これを受け、グローバル・リベラルアーツ学部の教育は、「高度な英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る人材を育成」することを目的としている。

本学部では、次のような学生を広く求める。

- (1)幅広い教養を身につける意欲を持ち、生涯にわたって自立学習者であろうとする人
- (2)グローバルな視点から現代社会の課題に取り組み、平和に貢献する意欲を持つ人
- (3)本学部での学修に必要な一定程度の英語能力を修得している人
- (4)本学部での学修に必要な基礎的学力としての知識・技能・思考力を備える人
- (5)他者と積極的にコミュニケーションを図り、協働する姿勢を持つ人
- (6)留学を通じて自己を成長させようとする強い意志を持つ人

1. 入学者選抜の方法等について

上記のアドミッション・ポリシーに基づいて、本学部での学修に必要な、一定程度の英語能力を修得していること、論理的・批判的・創造的思考力を有していること、大学での学修を通じて更にそれを伸ばし、生涯にわたって自立学習者たりえること、グローバルな事象に関心を持ち、将来、世界の平和と発展に積極的に貢献する意思を有すること、留学を通じて自己を成長させる意思を有し、異文化を尊重し、異環境下で他者と共存できること、幅広い分野について学修を深めたいという意思を有することを確認するため、6つの方式で以下のとおり2023年度入学者選抜を実施した。

(1) 入学区分、募集人員、出願基準・条件

入試区分	募集人員	出願基準・条件
総合型選抜	17名	・本学部が定める英語資格基準を満たす者
学校推薦型選抜	11名	・本学部を第一志望とし学校長の推薦がある者 ・当該年度に高等学校(中等教育学校を含む)卒業見込みの者及び高等専門学校の3年次以上を修了見込みの者 ・本学部が定める高等学校等の評定基準を満たす者 ・本学部が定める英語資格基準を満たす者
海外経験特別選抜	若干名	・高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)3年間のうち1学年に相当する期間を外国において修了した者及び修了見込みの者

		・本学部が定める英語資格基準を満たす者
一般入試	19名	・高等学校(中等教育学校を含む)を卒業した者及び 当該年度卒業見込みの者、高等学校卒業程度認定試験合格者及び合格見込み者等
共通テストプラス入試	3名	
共通テスト利用入試	10名	
合計	60名	

(2) 入試日程

入試区分		出願期間	試験実施日	合否発表日
総合型選抜	前期	2022年9月8日(木) ~9月14日(水)	10月8日(土) または 10月9日(日)	11月1日(火)
	後期	2022年 11月1日(火) ~11月8日(火)	11月24日(木)または 11月25日(金)	12月2日(金)
学校推薦型選抜	公募学校推薦入試	2022年 11月1日(火) ~11月8日(火)	11月24日(木)または 11月25日(金)	12月2日(金)
	指定校推薦入試			
海外経験特別選抜				
一般入試	前期	2023年 1月4日(水) ~1月20日(金)	A日程: 2月3日(金) B日程: 2月5日(日) C日程: 2月6日(月)	2月13日(月)
	後期	2023年 2月13日(月) ~2月21日(火)	3月2日(木)	3月4日(土)
共通テストプラス入試		2023年 1月4日(水) ~1月20日(金)	本学試験: 2月5日(日)	2月13日(月)
共通テスト利用入試		2023年 1月4日(水) ~1月13日(金)	本学試験(面接):2月3日(金)、2月5日(日)、2月6日(月)から選択	2月13日(月)

(3) 選抜方法

入試区分	方法	形式
総合型選抜	①書類審査 ②日本語プレゼンテーション(10分以内) *プレゼンテーション実施後、自身のプレゼンテーションについて	・Zoom アプリを使用しオンライン形式で実施 ・リフレクションシートの記入には、Google フォームを使用
海外経験特別選抜		

	振り返りをし、リフレクションシートに記入 ③質疑応答・面接（約 15 分）	
学校推薦型選抜	①書類審査 ②個別面接（約 15 分）	・個別面接は Zoom アプリを使用しオンライン形式で実施 ・大学内で面接受験する場合においても試験官とは別室で受験する形式
共通テストプラス入試	①個別学力審査（英語・国語）＋大学入学共通テスト 1 科目（外国語・国語以外） ②個別面接（約 10 分）	・個別学力審査は本学内において対面形式で実施 ・個別面接は受験生が大学内または自宅等での受験を選択する形式
共通テスト利用入試	①大学入学共通テスト（英語・国語）＋その他 1 科目（3 科目型）、その他 2 科目（4 科目型） ②個別面接（約 10 分）	・個別面接は Zoom アプリを使用しオンライン形式で実施 ・大学内で面接受験する場合においても試験官とは別室で受験する形式

2.入学者選抜の状況について

(1) 入学者の選抜結果

募集年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員 超過率
2021年度	60名	427名	408名	147名	59名	0.98
2022年度	60名	315名	308名	224名	81名	1.35
2023年度	60名	334名	323名	148名	67名	1.11

(2) 志願者及び入学者の状況

地域別の志願者及び入学者の状況は下表に示す。2023年度入学者選抜で志願があったのは27都道府県で、そのうち入学者が出たのは17都道府県であった。なお、出身校の所在地をもって出身地域としてカウントした。

都道府県別志願者数・入学者数集計表

地方区分	都道府県	2021年度		2022年度		2023年度	
		志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
北海道・東北	北海道	11	2	10	3	18	4
	青森県	10	3	2	1	5	2
	岩手県	4	3	4	2	0	0
	宮城県	5	3	4	1	5	1
	秋田県	1	1	3	1	2	0
	山形県	4	0	2	0	3	0
	福島県	6	0	9	2	10	3
関東	茨城県	13	2	23	5	18	3
	栃木県	10	0	6	2	12	3
	群馬県	2	0	1	1	6	0
	埼玉県	32	3	19	3	26	5
	千葉県	118	16	88	19	98	21
	東京都	110	12	69	18	58	9
	神奈川県	25	4	16	5	10	2
中部	新潟県	15	0	12	3	10	3
	富山県	0	0	5	2	1	1
	福井県	2	0	3	1	0	0
	山梨県	5	1	1	0	0	0
	長野県	8	2	3	1	9	3
	岐阜県	1	1	2	2	0	0

	静岡県	19	2	11	2	16	3
	愛知県	2	0	2	1	4	0
近畿	三重県	0	0	0	0	3	0
	滋賀県	0	0	1	0	0	0
	大阪府	1	0	1	1	0	0
	兵庫県	1	0	1	0	1	0
四国	鳥取県	0	0	0	0	3	1
	島根県	0	0	1	0	0	0
	高知県	1	0	0	0	1	1
九州・ 沖縄	福岡県	3	0	2	0	2	0
	長崎県	3	1	0	0	0	0
	熊本県	2	1	0	0	1	1
	宮崎県	0	0	0	0	3	0
	鹿児島県	5	1	1	0	1	0
	沖縄県	4	1	3	1	5	0
その他	高認※ ¹	3	0	6	1	3	1
	外国等※ ²	1	0	2	2	0	0
	認定	0	0	1	0	0	0
	専修学校の高等課程	0	0	1	1	0	0
合計		427	59	315	81	334	67

※1：高認：高等学校卒業程度認定試験 ※2：外国の学校等修了者

Ⅲ. 教育課程編成の取組

1. 教育課程の編成について

(1) 基本方針

本学部における教育課程編成の基本方針は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

本学部の教育研究目的は、「広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせること」(学則第2条第3項第2号)としていること、また、上記「1. 設置の趣旨及び必要性」及び「2. 学部・学科等の特色」を踏まえ、以下のとおり教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)を定めている。

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や能力を備えた人材を育成するため、以下の点を重視し、体系的にカリキュラムを編成する。

① 教育内容

(ア) 多様な学問領域にわたる幅広い教養

GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目及び演習科目(卒業研究を含む)に区分された各科目を適切な年次に配当し、人文科学、社会科学、自然科学、数理・データサイエンス分野などの幅広い学問領域をバランスよく学ぶカリキュラムを提供する。加えて、1年次前期の海外スタディ・ツアー、3年次後期のニューヨーク州立大学(SUNY)への留学において、日本国内では得られない様々な体験や、地域、言語、宗教、価値観などの異なる文化背景を持つ人々との交流を通じて、広義の教養を身につけることを目指す。

(イ) 人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解

1年次前期に「グローバル・チャレンジ・ターム」を設け、異文化・異環境を知ることを目的とした入学直後の海外スタディ・ツアーを基軸に、関心のあるテーマを掘り下げ、大学4年間における学びを方向付けるための教育を提供する。2年次以降に、文化、歴史、宗教、社会や共同体、国際関係やガバナンスなどについての知識に基づき、深い文脈でグローバルな事象を理解する力を養う。具体的には、カリキュラムの中核をなす3領域の専門教養科目群(“Humanities”、“Societies”、“Global Studies”)を設置し、人文科学と社会科学のさまざまな知識と方法論を身につけ、それらを総合的に活用する能力を研鑽する教育を提供する。

(ウ) グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力

1年次前期の英語の授業では、プレゼンテーション/ディスカッション、ライティングなど、スキルごとの到達目標を定め、継続性、統合性、個性を重視した指導により、段階的に目標達成に取り組む。1年次後期から2年次にかけては内容・言語統合型学習(CLIL: Content and

Language Integrated Learning) の授業や英語で行われる専門教養科目を展開することで高度な英語運用能力を身につけさせるとともに、3年次後期にはSUNYへの半年間の留学の機会を提供する。

(エ) 論理的かつ批判的な思考力

1年次に大学での学びに必要な基本的な読解力と言語表現力を養成する科目「基礎演習(アカデミック日本語)」を配置し、文献や情報の収集・読解の方法とレポートの書き方を学ぶ。2~3年次にはアクティブ・ラーニングを基本とする演習形式の授業「講読演習」、「研究演習」と、英語による“Discussions and Presentations”、“Media Literacy”、“Global Communication”等の授業を配置し、日本語と英語の両方における読解力、対話力、言語表現力を高めていくことで総合的に論理的・批判的思考力を研鑽する。さらに3年次後期にはSUNYへの半年間の留学を設定し、異文化環境において多角的で柔軟な思考力を修練する。最終的には4年次に取り組む卒業研究においてそれぞれの能力を十分に発揮することを目指す。(オ) 社会的な課題の発見と解決に貢献する力

1年次は、異文化環境において各地域の現状を見聞し、その体験の意味とその後の学修の方向性を学生自らが考察するための問題解決型の授業「グローバル・ディスカバリー」、オムニバス講義で平和や共生に対してどのように各学問領域からのアプローチが可能かを考える「グローバル・リベラルアーツ入門」、身体活動やアクティビティを通じて他者との協働性を実践的に培う「アドベンチャーコミュニケーションプログラム(GLA)」を置く。これらの学びと研究の方向性に従って、「専門教養科目」において具体的な課題発見・解決の方法や知識を修得し、その成果を「卒業研究」にまとめていく。また、1年次に「キャリアデザイン(GLA)」を、3年次前期に「グローバル・キャリア」を置き、学生がグローバル社会で自己のキャリアをいかに確立し社会と関わっていくかを考察する機会を設ける。

(カ) 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

異なる文化や価値観、社会の多様性に対する理解を深めるため、GLA基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目、演習科目といったグローバルな視野を身につける科目を配置する。また、学生が異文化や共生社会を理解し尊重する姿勢を修得するために、異なる環境での適応力育成の機会となる、入学直後の「グローバル・チャレンジ・ターム」や、3年次後期のSUNYへの半年間の留学の機会を提供する。

② 教育方法

・授業では、アクティブ・ラーニングを導入することにより、学生の専門知識とその運用能力、思考力と積極的な学修態度を養う。

・1~2年次はスキルを中心とした英語授業を展開し、1年次後期からはCLILの授業を履修させることで、「英語を」学ぶよりも「英語で」実践的かつ専門的な学修・運用能力を高める機会を提供する。

・学生の主体的な学修態度と学修能力を養うため、問題解決型授業を実施する。学生が課題を発見し、具体的な解決策を考えることができる教育を提供する。発表の場を通じて、学生のコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップを養成する。

・現代のグローバル社会で必要な幅広い教養を身につけるため、外国語科目の他、GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目、演習科目を教育課程に含める。基礎教養科目 B 群では、AI やデータサイエンスを身につけるための科目を含み、文理融合の教養を育む。

③ 学修成果の評価

- ・学修成果は、学生の授業科目の履修状況、各教育課程で達成した成果、および学士課程全般の成果を、教職員を中心として行う直接評価と、学生が自己の学修成果を主観的に判断する自己評価等の間接評価を通じて定期的に評価することとする。
- ・学生の学修状況は量と質の双方から観察し、学修ポートフォリオに記載させるなど、学修成果の可視化を図るとともに、学生の 4 年間の成長を段階的に評価する。

このような教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）のもと、2022 年度 GLA 学部
の授業科目は、以下の科目群、カリキュラム表及びシラバス（主要）に基づき、4 月 11 日
から授業を開始した。

【開講科目一覧】

科目区分	必修	科目 コード	講義名称	単 位 数
外国語	必修	180001	Academic Reading(a)	1
外国語	必修	180002	Academic Reading(b)	1
外国語	必修	180003	Academic Writing(a)	1
外国語	必修	180004	Academic Writing(b)	1
外国語	必修	180005	Academic Discussions & Presentations(a)	1
外国語	必修	180006	Academic Discussions & Presentations(b)	1
外国語	必修	180007	English for Academic Purposes(a)	2
外国語	必修	180008	English for Academic Purposes(b)	2
外国語	必修	180009	Self-Directed Learning	1
外国語	必修	180010	TOEFL ITP 演習	1
外国語	必修	180011	Critical Reading(a)	2
外国語	必修	180012	Critical Reading(b)	2
外国語	必修	180013	Advanced Writing(a)	2
外国語	必修	180014	Advanced Writing(b)	2
外国語	必修	180015	English for GLA I (Introduction to Global Issues)	2
外国語	必修	180016	English for GLA II (Media Literacy)	2
外国語	必修	180017	English for GLA III (Global Communication)	2
外国語	必修	180018	English for GLA IV (Peace Studies)	2
GLA 基礎	必修	310001	グローバル・ディスカバリー I	1

GLA 基礎	必修	310002	グローバル・ディスカバリーⅡ	1
GLA 基礎	必修	310003	グローバル・ディスカバリー (フィールドワーク)	4
GLA 基礎	必修	310004	グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰ	1
GLA 基礎	必修	310005	グローバル・リベラルアーツ入門Ⅱ	2
GLA 基礎	必修	310006	グローバル・ヒストリー	4
GLA 基礎	必修	310007	キャリアデザイン(GLA)	2
GLA 基礎	必修	310008	アドベンチャーコミュニケーションプログラム(GLA)	1
基礎教養	選択必修	310101	数的思考法	2
基礎教養	選択必修	310102	デジタル・シチズンシップ論	2
基礎教養	選択必修	310103	データ・サイエンス概論	2
基礎教養	選択必修	310104	コンピュータ・サイエンス概論	2
専門教養	選択必修	580001	宗教文化論Ⅰ	2
専門教養	選択必修	580002	宗教文化論Ⅱ	2
専門教養	選択必修	580003	芸術文化論Ⅰ	2
専門教養	選択必修	580004	芸術文化論Ⅱ	2
専門教養	選択必修	580005	人間と文学	2
専門教養	選択必修	580006	人間と思想	2
専門教養	選択必修	580007	世界近現代史	2
専門教養	選択必修	580008	文化人類学	2
専門教養	選択必修	580009	共生社会論	2
専門教養	選択必修	580011	社会と多様性Ⅱ	2
専門教養	選択必修	580012	社会とサステナビリティ	2
専門教養	選択必修	580013	現代社会とイノベーション	2
専門教養	選択必修	580014	言語・文化とコミュニケーション	2
専門教養	選択必修	580015	デジタル・メディアと社会	2
専門教養	選択必修	580016	異文化コミュニケーション論	2
専門教養	選択必修	580017	グローバル・ガバナンスⅠ	2
専門教養	選択必修	580018	グローバル・ガバナンスⅡ	2
専門教養	選択必修	580020	地域とグローバル世界Ⅱ	2
専門教養	選択必修	580021	グローバル平和論	2
専門教養	選択必修	580022	国際法 (GLA)	2
専門教養	選択必修	580023	国際機構論 (GLA)	2
専門教養	選択必修	580024	国際開発論 (GLA)	2
演習科目	必修	608001	アカデミック日本語Ⅰ	2
演習科目	必修	608002	アカデミック日本語Ⅱ	2
演習科目	選択必修	608003	講読(HUM) (宗教文化)	2

演習科目	選択必修	608007	講読(SOC) (社会と多様性)	2
演習科目	選択必修	608009	講読(SOC) (現代社会とイノベーション)	2
演習科目	選択必修	608013	講読(GS) (グローバル平和論)	2
演習科目	必修	608101	研究演習 I	2

【カリキュラム表】

グローバル・リベラルアーツ学科			1年次					
			前期(グローバル・チャレンジ・ターム) ※1				後期	
			第1ターム		第2ターム			
授業科目		単位	授業科目		単位	授業科目		単位
外国語科目	英語科目	必修	Academic Reading (a)	1	グローバル・ディスカバリー (フィードバック)	Academic Reading (b)	2	
			Academic Writing (a)	1		Academic Writing (b)	2	
			Academic Discussions & Presentations (a)	1		Academic Discussions & Presentations (b)	2	
			English for Academic Purposes (a)			2	English for Academic Purposes (b)	2
			Self-Directed Learning			1	TOEFL ITP 演習	1
							TOEFL ITP 500点 (TOEFL /BT 61点相当) の取得を目標とする。	1
選択外国語科目	選択必修							
GLA基礎科目	必修	グローバル・ディスカバリー I	1	グローバル・ディスカバリー II	1	グローバル・ヒストリー	4	
		グローバル・リベラルアーツ入門 I	1	アドベンチャー・コミュニケーションプログラム(GLA)	1	グローバル・リベラルアーツ入門 II	2	
				グローバル・ディスカバリー(フィールドワーク)	4	キャリアデザイン(GLA)	2	
基礎教養科目	A群	選択必修					一般教養科目群 (外国語学部と 共通開講) ※2	
	B群						デジタル・リテラシー 科目群	
専門教養科目	選択必修					※3		
演習科目	基礎	必修	アカデミック日本語 I			2	アカデミック日本語 II	2
	講読	選択必修						
	研究	必修						
履修登録上限単位数(CAP)			必修のみ(16単位)			必修のみ(19単位)		

※1 1年次前期は「グローバル・チャレンジ・ターム」となっており、約3週間の短期留学である海外スタディ・ツアーを基軸に、前半8週、後半8週での合計16週で、大学4年間における学びを方向付ける期間となっている。
 : 海外留学期間

2年次				3年次				4年次					
前期		後期		前期		後期		前期		後期			
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
Critical Reading (a)	2	Critical Reading (b)	2	English for GLA V	2	長期留学 (SUNY)	2	〈達成目標〉 卒業時まで(に、TOEFL ITP 580点 (TOEFL /BT 92点相当)を取得でき るように努める。(p16参照)					
Advanced Writing (a)	2	Advanced Writing (b)	2										
English for GLA I	2	English for GLA III	2										
English for GLA II	2	English for GLA IV	2										
選択外国語 I (a)/(b)を同じ言語で4単位 中国語、スペイン語、韓国語、フランス語、ドイツ語、アラビア語													
				グローバル・キャリア	2								
人文科学分野: 歴史学 I、歴史学 II、哲学 I、哲学 II、倫理学 I、倫理学 II、宗教学 I、宗教学 II、文学 I、文学 II、美術史学 I、美術史学 II、言語学 I、言語学 II、心理学 I、心理学 II、教育学													
社会科学分野: 社会学 I、社会学 II、法学 I、法学 II、憲法 I、憲法 II、政治学 I、政治学 II、経済学 I、経済学 II、経営学 I、経営学 II、統計学 I、統計学 II													
自然科学分野: 化学 I、化学 II、物理学 I、物理学 II、生物学 I、生物学 II、自然科学概論 I、自然科学概論 II													
2~4年: 数的思考法、デジタル・シチズンシップ論、データ・サイエンス概論、コンピュータ・サイエンス概論 3~4年: ビッグデータ解析論、エビデンスと評価													
Humanities (人間と文化) 宗教学論 I、宗教学論 II、芸術文化論 I、 芸術文化論 II、人間と文学、人間と思想、 世界近現代史、文化人類学				Societies (社会と共生) 共生社会論、社会と多様性 I、社会と多様性 II、 社会とサステナビリティ、現代社会とイノベーション、 言語・文化とコミュニケーション、デジタル・メディアと社会、 異文化コミュニケーション論				Global Studies (グローバル・スタディーズ) グローバル・ガバナンス I、グローバル・ガバナンス II、 地域とグローバル世界 I、地域とグローバル世界 II、 グローバル平和論、国際法、国際機構論、国際開発論					
※3分野から最低各4単位履修すること。								10					
Humanities (人間と文化) 講読(宗教文化)、講読(芸術文化)、 講読(文学/思想)、講読(歴史)				Societies (社会と共生) 講読(社会と多様性)、講読(社会とサステナビリティ)、 講読(現代社会とイノベーション)、講読(言語・文化と コミュニケーション)				Global Studies (グローバル・スタディーズ) 講読(グローバル・ガバナンス)、講読(地域とグロー バル世界)、講読(グローバル平和論)					
研究演習 I				2	研究演習 II				2	研究演習 III			
								卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)					
20単位		20単位		20単位		(16単位)		30単位		30単位			

※2 3年次後期留学で修得した単位を4単位まで充当できる。
 ※3 3年次後期留学で修得した単位を10単位まで充当できる。
 ■: 海外留学期間

【主なシラバス [授業の目的]

Critical Reading(a)

[COURSE DESCRIPTION]

This course is designed to develop students' academic English reading skills required for their undergraduate study, by having them read academic materials intensively and extensively. Students will be exposed to academic vocabulary, comprehend the materials, summarize them, and think about the contents critically.

Advanced Writing(a)

[COURSE DESCRIPTION]

In this course, students will improve both general and academic writing skills. The course is comprised of a mix of written and visual texts, and a variety of topics ranging from

Japanese culture to global issues to students' personal interests. Students will develop the ability to express their ideas in a manner that is clearly organized, integrated with other texts, and well thought out. Students will be able to both read and understand research texts which can then be applied to their own research paper in the 2nd semester so that students will be prepared for 3rd and 4th-year courses as well as their Capstone Project. By the end of the course, students will be able to not only fully and clearly express their own ideas, but analyze texts and integrate them into their own writing.

English for GLA I (Introduction to Global Issues)

[COURSE DESCRIPTION]

In this course, we will work with academic texts on a variety of global issues in order to familiarise students with not only the basic content but also the language used in the field. We will examine and practice the language used for describing global issues and for discussing issues and solutions in English. Through this explorative process, students will deepen their understanding of some of the key global issues and find creative solutions to problems through collaboration with others.

English for GLA II (Media Literacy)

[COURSE GOAL AND DESCRIPTION]

The goal of this course is to develop critical thinking and effective communication skills while acquiring the English proficiency required to take specialized courses conducted in English. Learn to understand the characteristics of media, take a broad and critical view, and acquire critical thinking and effective communication methods while improving your English proficiency. Students will be exposed to different types of media and learn how information is provided, communicated, and interpreted and how it affects individuals and society. We also analyze the messages sent by the media and their impact on modern society.

English for GLA III (Global Communication)

[COURSE DESCRIPTION]

The purpose of this class is to develop critical thinking skills and effective communication skills while acquiring the English proficiency required to take specialized courses conducted in English. In this class, students will develop their English proficiency while learning about topics related to cross-cultural communication. Students will expand their understanding of people of different cultures and think critically about the role that culture plays in cross-cultural communication in various contexts. Students will also learn how people from different cultural backgrounds communicate with each other. This class is also devoted to developing the capacity of the students to adapt and live in multicultural contexts. With that in mind, a number of participatory activities and various learning frameworks will be incorporated to help make the classes experiential.

English for GLA IV(Peace Studies)

[COURSE DESCRIPTION]

In this course, we will work with both “everyday” and academic texts, videos, and materials concerning Peace Studies in order to familiarise ourselves with not only the basic content but also the language used in the field. We will examine and practice the language used for describing Peace Studies and for discussing issues and solutions in English. Through this explorative process, students will deepen their understanding of some of the key Peace issues and find creative solutions to problems through collaboration with others. Through partnering with your classmates and the teacher you will somewhat control the direction that the class takes and hopefully become more personally peaceful as well as able to help others explore their propensity to experience peace.

研究演習（ゼミ） I

[COURSE INTRODUCTION]

GLA 学科「研究演習 I」は卒業研究に向けてのステップ 1 となります。研究演習 I では人間と文化（Humanities）、社会と共生（Societies）、グローバル・スタディーズ（Global Studies）の 3 つの専門領域の研究・メソッドを学びます。研究テーマを学生自らが探するための第一歩として、研究の方法論（文献精読、ケース・スタディ、比較研究等）を学ぶとともに、「平和を創る」という目的と自己の関心が一致する研究の方向性を、演習での発表と議論、および教員による個別指導を通じて考えていきます。

Research Seminar I is the first step towards the senior thesis (Capstone Project). Students will develop an understanding of the research methodologies in the three areas of Humanities, Societies, and Global Studies and explore research themes with the objective of “creating peace” from different or eclectic approaches. They will develop the knowledge and competencies through reading, writing, discussion, presentations, and tutoring by the instructor.

(2) 特色と特記事項

教育課程編成の基本方針に基づく本学部の教育課程は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおりその概要を記載している。

本学部の教育課程は、①外国語科目、②GLA 基礎科目、③基礎教養科目、④専門教養科目、⑤演習科目及び⑥卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）に体系的に区分され、次のとおり編成している【資料 1、2】。

① 外国語科目

(ア) 英語科目

英語運用能力の養成に力を注ぎ、オンライン授業を活用しつつ、順次性のある体系的な教育課程を編成する。本学部では、2 回の留学を念頭に置き、英語 4 技能（「聞く (listening)」、「読む (reading)」、「話す (speaking)」、「書く (writing)」）習得のための授業に加え、コンテンツ・ベースの英語 (CLIL) 科目を設置する。CLIL は、海外留学の準備として、様々な専門分野の入門レベルの内容を英語で学ぶ科目である。

(イ) 選択外国語科目

選択外国語科目として、中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、イタリア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語を履修可能とする。2 年次以降の履修が必修である。

② GLA 基礎科目

1 年次の必修科目として、「グローバル・ディスカバリー I・II」（グローバル課題学習及び課題解決型授業）、「グローバル・リベラルアーツ入門 I」（グローバル時代の教養について学ぶ）、「グローバル・リベラルアーツ入門 II」（グローバル時代の平和について学ぶ）、「キャリアデザイン (GLA)」「アドベンチャー・コミュニケーションプログラム (GLA)」（協力が求められる身体活動及びコミュニケーション・アクティビティ）、「グローバル・ヒストリー」がある。「海外スタディ・ツアー」に必要な GLA 基礎科目を事前・事後に履修し、1 年次の「グローバル・チャレンジ・ターム」のプログラムの一環とする。

3 年次前期では、「グローバル・キャリア」を必修とし、3 年次後期の海外留学とその後のキャリア・プランを学生が見据えることをねらいとする。

③ 基礎教養科目

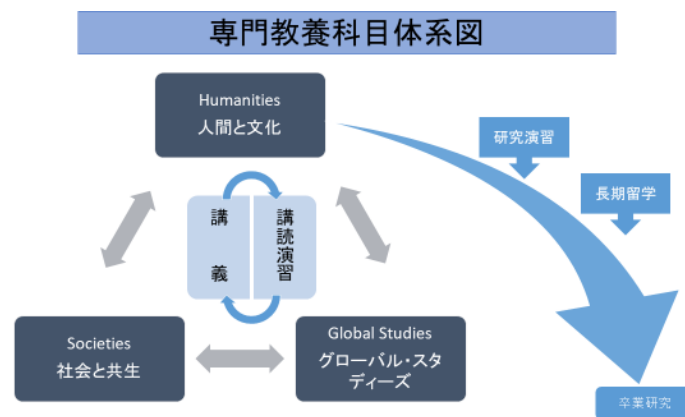
A 群(外国語学部と共有する科目群)では、人文科学分野（「歴史学」、「哲学」等）、社会科学分野（「社会学」、「法学」等）、自然科学分野（「自然科学概論」、「生物学」等）の科目を設定する。

B 群は本学部独自の科目群で、「数的思考法」、「デジタル・シチズンシップ論」、「データ・サイエンス概論」、「コンピュータ・サイエンス概論」、「ビッグデータ解析論」、「エビデンスと評価」の科目を設定し、文理融合の教養教育を涵養する。

④ 専門教養科目

専門教養科目は、「Humanities (人間と文化)」「 Societies (社会と共生)」「 Global Studies (グローバル・スタディーズ)」の科目群から構成される。「Humanities」では、「宗教文化論」、「芸術文化論」、「人間と文学」、「人間と思想」、「世界近現代史」、「文化人類学」から選択履修す

る。「Societies」では、「共生社会論」、「社会と多様性」、「社会とサステナビリティ」、「現代社会とイノベーション」、「言語・文化とコミュニケーション」、「デジタル・メディアと社会」、「異文化コミュニケーション論」から選択履修する。「Global Studies」では、「グローバル・ガバナンス」、「地域とグローバル・世界」、「グローバル平和論」、「国際法」、「国際機構論」、「国際開発論」の科目からの選択履修が可能である。なお、これら 3 つの講義科目群に対応した演習科目（講読演習）が用意されており、これにより研究演習、そして卒業研究へと専門性が深化する仕組みとなっている。



⑤ 演習科目（アカデミック日本語、研究演習）及び卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）の必修化

1 年次の基礎演習として、「アカデミック日本語 I・II」を通年で実施し、日本語能力の向上のほか、論理的思考と課題設定能力を育成する。

2 年次後期以降は、「講読演習」を履修する。「講読演習」には、専門教養科目同様の 3 つの科目群（「Humanities」、「Societies」、「Global Studies」）があり、各科目に関連して文献精読・発表・議論を行う。今まで履修した科目で得た知識を深め、学生が主体的かつ実践的に学ぶことを目的とする。

本学部の学生は、3 科目（半期科目の「研究演習 I」・「研究演習 II」と、通年科目の「研究演習 III」）の研究演習（ゼミ）を履修する。本学部では、ゼミは必修であり、2～4 年次にかけてゼミを漸次履修することにより、学生の関心のあるテーマを設定し、適切な方法論を用いた卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）へと円滑につなげる。

⑥ 卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）

本学部では、卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）の履修は、文章（文献）を読む力、討論する力、文章を書く力、論理的に考え、分析する力を育成する上においても有意義であるとの考えに基づき、研究演習の履修とともに必修である。本学部では、大学生活の学びの集大成（Capstone）として卒業研究を完成させる。

GLA学部教育課程の概要						
授業科目／学年		概要	1年	2年	3年	4年
外国語科目	英語科目	高度な英語運用能力の獲得	→	→	→	→
	選択外国語科目	もう一つの言語運用能力の獲得	→	→	→	→
GLA基礎科目		リベラル・アーツを知る、学ぶ スタディツアーの準備、振り返り	→	→	→	→
基礎教養科目	A群	幅広い教養を身につける	→	→	→	→
	B群	AIやデータサイエンスを身につける	→	→	→	→
専門教養科目	Humanities(人間と文化)	3分野にわたり、発展的な教養を講義と演習(講読)により身につける	→	→	→	→
	Societies(社会と共生)					
	Global Studies(グローバル・スタディーズ)					
演習科目	基礎演習	日本語能力の向上、論理的思考と課題設定能力を育成	→	→	→	→
	講読演習	既習科目で得た知識を深め、学生が主体的かつ実践的に学ぶ	→	→	→	→
	研究演習	学生の関心のあるテーマを設定し、卒業研究へとつなげる	→	→	→	→

①特色

また、教育課程における特色は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

また、本学部での教育課程編成上の特色は以下の9点である。

- ① 建学の理念に基づく「平和」についての徹底的な学修
- ② ・ 本学は「言葉は世界をつなぐ平和の礎」を建学理念としている。この本学の建学理念である「平和」を学部教育の根幹に据えて、言語・コミュニケーションを含む幅広い観点から学修する。
- ② 高度な英語運用能力の修得
 - ・ グローバル化の時代に不可欠な英語力を高め、卒業時まで TOEFL ITP580 (TOEFL iBT92相当) を達成することを目標とする。
- ③ これからの社会で必要とされる幅広い教養教育の涵養
 - ・ 人文・社会科学から数理・自然科学にわたる教養科目を設置し、文理融合の教育を実践する。
- ④ 徹底した少人数教育
 - ・ 英語科目のうち言語運用能力そのものの向上を目的とした授業については原則として 20 名以下、内容・言語統合型学習(CLIL)の授業の場合は 30 名以下にする。
 - ・ 専門教養科目については 1 クラスの人数を、20~40 名程度となるよう開講する。
 - ・ 「研究演習」は 1 クラス 10 名程度を標準とする。
- ⑤ 演習科目及び卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)の必修化

- ・ 学生による自発的学習の場である演習科目は必修とする。
- ・ 入学時は「アカデミック日本語」の履修により日本語での「考える力」と「書く力」の強化を図る。また、2～4年次では「研究演習」(ゼミ)を継続して履修することにより、「卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)」につなげるなど、演習科目を大幅に拡充する。
- ⑥ 課題解決型学習、アクティブ・ラーニングによる授業編制
 - ・ 一般科目についても、出来る限り、ゼミ形式又はアクティブ・ラーニング形式で実施する。
- ⑦ 「グローバル・チャレンジ・ターム」導入
 - ・ 1年次前期を本格的な大学教育に先立つ「ギャップ・ターム期間」として位置づけ、特別なカリキュラムを設定する。
 - ・ 期間の中核に「海外スタディ・ツアー」を位置づけ、事前学修・事後学修を併せた効果的なプログラムを構築する。
- ⑧ 2回の留学を必修化
 - ・ 入学直後の「海外スタディ・ツアー」(必修)は、異文化・異環境を体験し、グローバルな感性・多文化共生の観念を身につけ、将来を見据えた学修の目標立てに資することがねらいである。
 - ・ 3年次後期に長期留学(SUNY:1セメスター)を必修にする。さらに海外ボランティア等の活動を推奨する。
- ⑨ 教育成果の可視化
 - ・ 各種の学修成果の可視化と大学時代に大学の内外で学修した成果を証明する仕組み(ポートフォリオ形式など)を構築する。

以上、①から⑨の特色のうち、2022年度における特記事項は次のとおり。

② 特記事項

⑤ 演習科目及び卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)の必修化

研究演習は、2年次後期の研究演習Ⅰから始まり、3年次前期に研究演習Ⅱ、4年次は通年で研究演習Ⅲと卒業演習(キャップストーン・プロジェクト)を必修科目として設定している。2022年度においては10の研究演習Ⅰが開講された。

研究テーマ

科目区分	担当教員	研究テーマ
人間と文化	上野 太祐	広義の「芸術文化」と「平和」を意識した、実存的問題関心に基づく《読み》と《問い》の時空
	植田 かおり	哲学入門演習—プラトン『饗宴』を読む
	鈴木 健太	歴史と「人間と文化(HUMANITIES)」Ⅰ
	吉田 京子	ジャラルルッディーン・ルーミーの『マスナヴィー』を通じて宗教分野研究の基礎を学ぶ。
社会と共生	石井 雅章	ESGと企業
	PARK Siwon	Language, culture, and society
	知念 渉	人に話を聞きに行く

グローバル・スタディーズ	河越 真帆	研究の方法論（文献精読、ケース・スタディ、比較研究）を学ぶ
	阪田 恭代	平和と安全保障について考える（問う、調べる、書く）
	高橋 麻奈	グローバル社会を協働して動かす方法とは？という問いへの「地球市民」としての答えを探しだす

⑧ 2回の留学を必修化

本学部では、ディプロマ・ポリシーをふまえ、短期海外研修及び長期留学の計2回の留学を必修としている。

1回目は、入学直後の1年次の6～7月にかけて行われる約3週間の「海外スタディ・ツアー」であり、2回目は、3年次の後期のニューヨーク州立大学（SUNY）への1セメスター留学である。

2回のうちの1回目の「海外スタディ・ツアー」について、「設置の趣旨等を記載した書類」において次のとおり記載している。

① 目的・概要

本学部独自の取組として、入学後のセメスターにおいて、「海外スタディ・ツアー」をコア・カリキュラムとする「グローバル・チャレンジ・ターム」を設定する。

このタームは、いわゆる「ギャップ・ターム」としてとらえており、本格的な学部教育がスタートする前の半年間で、何のために学ぶのか、どう自身の能力や関心を涵養するのか、また、学んだことを用い社会でどう自己実現していくかなどを、学生に深く考えさせるための時間として位置づけ、特別なカリキュラム編制を行っている。

そのカリキュラムの中核となるのが、地域ごとに特色のあるフィールドワークを組み込んだ「海外スタディ・ツアー」であり、入学直後の第1年次の6～7月に約3週間の日程で実施する。

「海外スタディ・ツアー」は、以下の諸点を目的として実施する。

(ア) 入学後間もない時期に実施することから、第一義的に、異文化にふれることで刺激(カルチャー・ショック)を与えるとともに、異環境下での生活・学修を体験することで、グローバルな感性、多文化共生力の涵養、新たな課題や困難に直面した際の問題解決能力の醸成を図ること

(イ) 建学の理念である平和について深く学ぶこと、また、地域によっては、学校、児童養護施設などでボランティア活動を行うことにより、格差、貧困、環境、移民・難民問題などグローバル化した現代社会が抱える課題について、自分自身その解決に何ができるか考えさせること

(ウ) 各国・地域ごとに、専門教養科目で学ぶ「人間と文化」、「社会と共生」、「グローバル・スタディーズ」の各分野の課題やSDGsに関連したテーマを深く学び、1年次後期からの学修の方向性や動機づけを図ること

このようなことから、「海外スタディ・ツアー」では、本学部の学修内容に合致し、かつ、通常、大学初年次では渡航する機会が限られると思われるインド、リトアニア、エルサレム、マレーシア・ボルネオに学生を派遣することとしている。

なお、学生を海外に送るにあたっては、今般の新型コロナウイルス感染に伴う収束状況を慎重に見極めるほか、これら地域の状況の変化やその他感染症の発生など、安全対策が最大の課題と認識しており、この点に最大限配慮して実施することとしている。

2022年度は7月の海外スタディ・ツアーの渡航前に、6月下旬から、本学及び福島県にある本学の国際研修センター/ブリティッシュヒルズと本学キャンパスにて、リトアニア、インド、マレーシア・ボルネオ、エルサレムの4地域の協定校とオンラインでつながり、現地の授業を受講する、国内研修を実施しました。

7月初旬には、上記の4カ国・地域からいずれか1カ所に渡航し、約2週間のフィールドワークを実施しました。

「海外スタディ・ツアー国内研修」 ブリティッシュヒルズ研修							
A班日程	6月18日(土)	6月19日(日)	6月20日(月)	6月21日(火)	6月22日(水)	6月23日(木)	6月24日(金)
B班日程	6月25日(土)	6月26日(日)	6月27日(月)	6月28日(火)	6月29日(水)	6月30日(木)	7月1日(金)
9:00 ~ 10:30		朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
10:40 ~ 12:10		1限	1限 英語研修①	1限 英語研修②	1限 英語研修③	福島 フィールド トリップ 「東日本大震災・ 原子力災害伝承館」 「東京電力廃炉資料館」 「東江町」「双葉町」など 東日本大震災および 原発事故関連施設訪問 および関係者等との面談	1限 研修総括
		2限	2限 リフレクション	2限 リフレクション	2限 リフレクション		
		昼食	昼食	昼食	昼食		
		3限	3限 事前学習	3限 事前学習	3限 事前学習		
13:10 ~ 14:40		4限	4限 海外協定校 オンライン授業	4限 海外協定校 オンライン授業	4限 海外協定校 オンライン授業		移動
14:50 ~ 15:50	移動	5限	5限 海外協定校 オンライン授業	5限 海外協定校 オンライン授業	5限 海外協定校 オンライン授業		
16:00 ~ 17:00		6限	6限 海外協定校 オンライン授業	6限 海外協定校 オンライン授業	6限 海外協定校 オンライン授業		
17:10 ~ 18:10	6限 オリエンテーション①	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	
19:00 ~ 21:00	7限 課題学習	7限 課題学習	7限 課題学習	7限 課題学習	7限 課題学習	7限 リフレクション	

「海外スタディーツアー国内研修」 神田外語大学キャンパス研修

B班日程	6月19日(日)	6月20日(月)	6月21日(火)	6月22日(水)	6月23日(木)
A班日程	6月26日(日)	6月27日(月)	6月28日(火)	6月29日(水)	6月30日(木)

10:40 ~ 12:10	2 限	リフレクション	2 限	リフレクション	2 限	リフレクション	2 限	リフレクション
---------------------	--------	---------	--------	---------	--------	---------	--------	---------

13:10 ~ 14:40	3 限	事前学習	3 限	事前学習	3 限	事前学習	3 限	事前学習
14:50 ~ 15:50	4 限	海外協定校 オンライン授業	4 限	海外協定校 オンライン授業	4 限	海外協定校 オンライン授業	4 限	海外協定校 オンライン授業
16:00 ~ 17:00	5 限	海外協定校 オンライン授業	5 限	海外協定校 オンライン授業	5 限	海外協定校 オンライン授業	5 限	海外協定校 オンライン授業
17:10~ 18:10	6 限	海外協定校 オンライン授業	6 限	海外協定校 オンライン授業	6 限	海外協定校 オンライン授業	6 限	海外協定校 オンライン授業

2022年度/GLA学部「海外スタディーツアー」

	リトアニア	エルサレム	インド	マレーシア/ボルネオ
7月8日(金)	成田21:40発	羽田22:05発	成田10:55発 フネ23:00着	
7月9日(土)	ビリニュス9:25着	テルアビブ8:55着	フネ	成田11:20発 KL17:45着
7月10日(日)	カウナス	テルアビブ	フネ	クアラルンプール
7月11日(月)	カウナス	テルアビブ	フネ	クアラルンプール
7月12日(火)	カウナス	エルサレム	フネ	KL→クチン
7月13日(水)	カウナス	エルサレム	フネ	クチン
7月14日(木)	カウナス	エルサレム	フネ	クチン
7月15日(金)	カウナス	エルサレム	研修切り上げ、早期帰国 決定	クチン
7月16日(土)	リトアニア国内	西岸地域	フネ7:30発	ボルネオ島
7月17日(日)	ビリニュス	西岸地域	成田10:30着	ボルネオ島
7月18日(月)	ビリニュス	テルアビブ		クチン
7月19日(火)	ビリニュス	テルアビブ		クチン
7月20日(水)	ビリニュス13:40発	テルアビブ21:50発		クチン16:35発
7月21日(木)	成田12:45着	羽田19:20着		成田7:05着
	上記日程で20名中 16名帰国 現地感染者(4名)は、 31日に帰国	上記日程で24名中 22名帰国 現地感染者(2名)は、 27日に帰国	上記日程で24名中 18名帰国 現地感染者(6名)は、 27日及び29日に帰国	上記日程で14名全員が 帰国

2022.09.14 2022年度第5回 GLA 運営委員会

報告事項：(2) 海外スタディーツアーの満足度アンケートの結果報告について(抜粋)

1. 全体的な評価

- 学生のアンケートを見ても、地域ごとに若干の差はあるものの、満足度は総じて高く、プログラム面から見れば、所期の目的を達成することができたと認識している。
- 出発時期が、当初想定できなかった、新型コロナウイルス感染者が日本をはじめ世界的に急増する時期にあたったことから、現地で感染者が想定以上に出て、インドに関しては、日程を途中で打ち切ることになった。新型コロナ感染症に対する意識や準備、対策が不足していたことは否めず、大きな反省点である。

2. プログラム面の評価と課題

- 海外スタディ・ツアーの現地でのプログラムは、①提携大学による講義、②提携大学等の学生との交流、③フィールドワーク、の大きく3つから構成されているが、地域ごとに偏りがあり、地域によっては①がほとんどなかった。所期の目的に照らせば適切とは言えず、学生の期待に十分に答えることができないものも見られた。

* インド

学術的な講義が少なく、服飾や舞踊、現地料理制作などインドの文化を体感するプログラムが主体で、本来の格差や NGO による支援、技術革新などを学ぶフィールドワークが少なかったり、そもそも設定されていなかった。なお、時期的に雨期に入ったことが、フィールドワークの実施に影響を与えたことは否めない。また、山の上の新キャンパス内の寮に宿泊したことは、治安面や医療体制などの点で恵まれていたが、一方で、すべてバス移動で、学生が自らの足でプネの街を気軽に体験することができず、一長一短があった。

* リトアニア

そもそも大学での講義がほぼ設定されておらず、学生の不満が垣間見られた。また、リトアニアという国をベースに平和ということを深く考えさせるのが第一の目的であったが、結果的に、リトアニアの歴史や文化など、リトアニアという国に特化したプログラムになってしまい、幅や深みがなくなったことは否めない。なお、時期的な理由もあるのか、現地の大学生との交流会に来た学生が2名と少ないことも、参加者の期待を裏切った。

* マレーシア/ボルネオ

ボルネオ島は多文化共生を学ぶという点では、絶好のフィールドであるが、提携したスウィンバーン工科大学ボルネオ校は中華系の教職員が多く、講義内容も合わせ、必ずしも、その点を感じられるプログラム内容とはならなかった。また、サステナビリティがメインテーマであるにも関わらず、熱帯雨林の伐採と再生について、具体的にそれを見学し対応を考えるまでのプログラムが構築されていなかった。結局、なぜマレーシアを選んだのかと言う問いに現行のプログラムでは答え切れていない。

* エルサレム

ヘブライ大学における講義とフィールドワークのバランス、組み合わせなど、海外スタディ・ツアーとして完成形に近いものを提供していただき、学生の満足度も他地域と比較すると高さが目立つ結果となった。ただ、このプログラム内容を今回の日数で回すのは、日程的に極めてタイトであり、学生の疲労が著しく、その点での再考が必要である。

○ 本年度のフィールドワークは、すべて大学側で用意したプログラムで学生全員が一律に参加したが、来年度は、地域にもよるが、1日、学生のグループが自ら課題を設定し、安全面に最大限の配慮を払いつつ、街中でスタディをおこない、結果を取りまとめ報告させるという、一種の自立学習的なプログラムの導入の検討が望ましいのではないかと考える。

3. 運営面の評価と課題

○ 今回、4つの地域に引率で赴いた教職員は、学生の学びが達成できるよう、それぞれの地域の実情に応じ十二分な対応にあたっていただいたものと感謝している。とりわけ、3つの地域で、新型コロナ感染症に罹患した学生が当初予定の帰国便に搭乗できなくなったことから、職員も現地に残ってその対応にあたっていただいた。

○ 新型コロナ感染症対策については、感染することそのもののリスクではなく、感染することにより、日本政府が定める現地出国前72時間以内のPCR検査で陰性が出るまでに個人差があり、人によっては相当の時間がかかることから、航空券の再取得やホテルの延泊など、現地出国までの目処が極めて立てにくくなることに最大のリスクがある。来年度、コロナの状況がどうであるかは現時点で予測がつかないが、仮に、日本政府が同様の水際対策を継続しているとすれば、それに即応した体制をとって臨む必要がある。具体的には、今回、インドは仲介をしたSGSとの関係で、職員の引率を1名としたが、その反省に立って、各地域とも男女の職員各1名の引率が適切と考える。

4. 来年度に向けた課題と検討事項

○ 今回の経験をふまえ、来年度、4つの地域で海外スタディ・ツアーを実施するためには、以下のような課題について検討をおこない、しかるべく見直しをおこなう必要があると考える。

① オンライン・プログラムの見直し

本年度、実施した感想では、オンライン・プログラムは、コストの割には効果が薄いという印象をもった。学生のなかにも、自分が実際に現地に行かない地域のオンライン・プログラムを受講するのであれば、参加する地域のことをもっと学びたいという声があった。オンラインによる授業を継続するとしても、現在の提携大学による講義形式でよいのか、再検討と工夫が必要と考える。

② 1地域あたりの参加学生数の見直し

本年度は、学生数が多いのに加え、1年生全員（82名）が参加し、行き先を希望どおりに認めたことから、明らかに適正人数を超えた地域もあった。来年度は、ほぼ

定員に近い学生数となることを前提に考えれば、1地域あたり最大20名までとし、コストが高く運営が難しいエルサレムは15名までに制限するなど、地域ごとにきめ細かい対応が必要と考える

③本学主導によるプログラムの構築

本年度は、地域ごとのプログラムを策定するにあたって、例えばインドのようにほぼ先方任せにしてしまった地域があった。その結果、地域ごとのアンバランスや所期の目的に照らし不十分なプログラム内容となったことを反省し、来年度は、本学の意向をしっかりと先方に伝え、本学主導のうえで、双方で創り上げていくようなプログラム策定の進め方としたい。

④学生の英語力への対応

エルサレムのアンケート結果を見ると、大学や現地英語ガイドの英語が聴き取れ理解できたとする学生の比率は50%程度に留まっている。海外スタディ・ツアーで英語漬けになることは意味があるが、一方で、日本語でも理解が難しい内容を英語で理解させようとし、結果的に理解できずフラストレーションが溜まるのは、研修効果の点からしても適切とは言えない。難しい課題ではあるが、なんらかの改善策を講ずる必要があると考える。また、ボルネオでも現地の講師の英語が聞きづらく理解できないという声があがっており、改善が必要と考える。

⑤実施時期の見直し

インドについては、雨期の始まりにあたったことから屋外の活動に支障が生じた。また、リトアニアでは、学期が終わっていたことから、学生との交流会に来る現地学生数が少なかったものと思われる。学年暦との調整や実務的な準備の関係から、大幅な日程の見直しは難しいものの、オンライン・プログラムの見直しと連動して、2週間程度、前倒しを検討することも必要ではないかと考える。

⑥期間の見直し

現在は、公平性の観点から、地域ごとの日程はほぼ同一であるが、現状では、地域により学ぶべきことの量に差があることから、地域の特性に応じ、日程に差をつけることの検討や、エルサレムのように強行日程で学生の健康管理上好ましくないこともあり、日程の長さやプログラム内容について再検討が必要と考える。

⑦実務面での簡素化

本年度、相手方との関係で、地域によっては、本学の教職員の負担が相当大きい手作り感の強いプログラム（例えばエルサレム）となってしまった。働き方改革などに照らせば、具体的な方途は今後検討するとして、省力化を念頭においてプログラムを策定進めることが必要と考える。

⑧コストの縮減

本年度の海外スタディ・ツアーは新型コロナウイルス感染症対策の不測の支出もともない、予算的に許容できる範囲を超えていると思料し、大きな反省点である。来年度は、オンライン・プログラムの見直しや1地域あたりの参加者数の調整（高コストの地

域は参加人数を制限)、現地での経費の見直し、などをおこない、コストの削減を図りたい。しかしながら、例えば、ホテルから学生寮への宿泊に切り替えることは、一定の予算縮減効果はあるが、一方で、フィールドワークの実質化を念頭におけば、立地が悪く制約が多い学生寮へ宿泊することで研修効果を半減させてしまうおそれがある。また、1国だけでは研修効果が薄いリトアニアでは、周辺国（ポーランド、ドイツなど）を組み合わせることで、テーマに応じたより掘り下げた学修効果が期待できるが、コスト増の要因ともなり得る。あるいは、マレーシア/ボルネオについては、ボルネオと半島部を組み合わせるのではなく、シンガポールと組み合わせることにより、より多文化共生について明確に学ぶことができることが期待され、インドについては、プネだけで研修を完結させるのではなく、乗換をおこなうデリーで数日間滞在することで違ったインドの姿を見せることが可能となる。が、いずれもコストとの関係を十分に精査しなければならない課題である。これらの点は、プログラムの進化を目指した一例であるが、海外スタディ・ツアーの目的の達成と研修効果の最大化の観点に立って、問題点や課題をすべてテーブルにあげ、予算をどこに重点的に割り振るかについて、関係者で多面的かつ慎重な検討が不可欠と考える。

GLA 学部 2 年生全員を対象に、3 年次後期の SUNY 留学に関して、留学オリエンテーションを 2 回、説明会を 2 回（うち 1 回は奨学金、授業料の減免関係）開催し、カウンセリングを行いながら留学や留学先の決定に向けた準備を進めた。

ニューヨーク州立大学(SUNY)留学に向けた準備状況

6 月 6 日 (月) ~9 日 (木) 12:15~13:00	ニューヨーク州立大学(SUNY)留学オリエンテーション (オンライン開催)
10 月 18 日 (火) ~19 日 (水) 12:15~13:00	ニューヨーク州立大学(SUNY)第二回留学オリエンテーション (オンライン開催)
10 月 28 日 (金)	ニューヨーク州立大学(SUNY) 第二回留学オリエンテーションアンケートの実施 (留学先調査、面談予約を含む)
1 月 28 日 (土) 10:00~11:00	ニューヨーク州立大学(SUNY)留学説明会 (オンライン) <ul style="list-style-type: none"> ①今後の留学までのスケジュール ②各校留学に必要な出願条件 (英語力、成績など) ③留学にかかる費用・奨学金

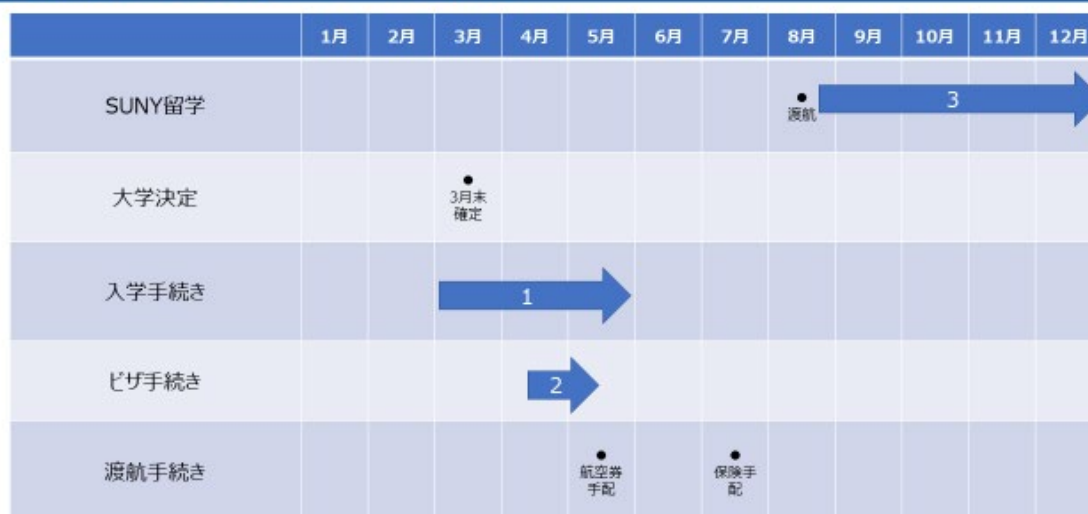
	<p>④留学準備に必要な手続き</p> <p>⑤Q&A (開催案内に付記した告知内容)</p> <p>2023年1月から、GLA学部2年生全員を対象とした個別カウンセリングの実施を予定しています。</p> <p>3年次後期のSUNY留学に関して、希望キャンパス、希望学習分野、英語力などをヒアリングさせていただき、今後の留学準備を円滑に進められるようアドバイスさせていただきます。</p>
--	--



**GLA学部
ニューヨーク州立大学 (SUNY)
留学説明会**

**神田外語大学
2023年1月28日**

渡航までのスケジュール概要



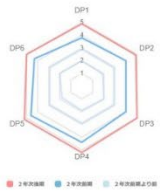
<p>2月24日（金） 12:00~13:00</p>	<p>ニューヨーク州立大学(SUNY)留学 奨学金および授業料減免説明会（オンライン開催） （開催案内に付記した告知内容） 全学生提出必須の『英文エッセイ』ですが、今回は、Advanced writing クラスで提出したりサーチペーパーを提出していただきます。＜提出期限＞2023年3月1日（水）17:30 最後に、1月28日のSUNY留学説明会でも、本日の説明会でも、ご案内しました通り、SUNY留学用のオンラインフォームの提出を期日までにお願いします。まだオンラインフォーム未提出の方は下記のフォームより申込を行ってください。＜オンラインフォーム提出期日＞2023年3月15日（水）17:30</p>
<p>3月15日（水）8:00AM ～</p>	<p>ニューヨーク州立大学(SUNY)Purchase College に留学中の日本人学生の方（1名）とのオンライン交流会</p>
<p>3月20日（月）13:10～</p>	<p>ニューヨーク州立大学(SUNY)Oswego 校担当者来校に伴う交流会の開催（対面、GLA コモンズ）</p>

⑨ 教育成果の可視化

2021年4月の開設時から運用を開始したKUISポートフォリオにて、日々の学習活動を記録し可視化を行っている。

2022年度においては、2021年度の実績を踏まえて「グローバル・リベラルアーツ入門」「アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱ」を中心とした科目で学習サイクルの入力やフィードバックが定着してきた。

また、2年次の修了を見込んで、当初から計画していたディプロマサプリメントの開発に着手した。出力項目や集計方法、およびレイアウトの検討から開始し、学生がKUISポートフォリオの画面上での確認に加えてPDFでの出力・印刷によって活用できるように設計を進めた。実際の成績データなども合わせて登録し、年度末までに完成することができた。

DIPLOMA SUPPLEMENT															
1. INFORMATION ABOUT THE HOLDER OF THE QUALIFICATION 1.1 Name (Given Name / Family Name) 1.2 Date of Birth 1.3 Student Identification Number 1.4 Nationality(ies) 1.5 Native Language	2. INFORMATION ABOUT THE QUALIFICATION 2.1 Name of Qualification 2.2 Main Field of Study 2.3 Awarding Institution 2.4 Official length of the program 2.5 Year of Graduation(Month / Year)														
3. Educational Goals of Faculty of Global Liberal Arts <ul style="list-style-type: none"> ・ 広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多角的に理解する。 ・ 専門知識や技術を教授・研究するとともに、高度な英語運用能力と多文化共生力を備える。 ・ 世界の多様な課題に立ち向かい、平和と繁栄の根柢に主体的に貢献し得る能力を身につける。 															
4. Graduate Attributes to be Achieved upon Graduation <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な学習領域にわたる幅広い教養 ・ 人間と文化、社会と共生、平穩にかかわるグローバルな事象に対する深い理解 ・ グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力 ・ 論理的かつ批判的な思考力 ・ 社会的な課題の発見と解決に貢献する力 ・ 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢 															
5. Achieved Competencies by the Holder against DP															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>DP</th> <th>Summary of Achievement (Date: 2022/08/29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 (4.9 / 5.0)</td> <td>I took a critical reading class and achieved a speed improvement in reading English. Furthermore, I achieved to be able to understand more deeply by questioning the written contents. GPA(3.8/4.0)</td> </tr> <tr> <td>2 (4.9 / 5.0)</td> <td>Took HUMAN BEINGS AND LITERATURE. I was able to see the influence of human life on literature. I was able to deepen my understanding by investigating the historical background in which the books and movies were produced.</td> </tr> <tr> <td>3 (5.0 / 5.0)</td> <td>Took English for GLA (Media Literacy). By analyzing media problems in global society, presenting them, and receiving feedback, I was able to not only learn new words, but also learn about the current state of global society. TOEFL ITP: 527 (2022/10/29)</td> </tr> <tr> <td>4 (5.2 / 5.0)</td> <td>Took INTRODUCTION TO DATA SCIENCE. I have achieved the skill of analyzing data from the results of questionnaires and thinking more clearly and logically by quantifying what factors influence the results, rather than just looking at them in words. 批判的思考力スコア (GPS-Academic) : 45.6 (2022/03/21)</td> </tr> <tr> <td>5 (5.2 / 5.0)</td> <td>Took RESEARCH SEMINAR I (Masaaki Ishi). By reading the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction, I was able to understand the current state of modern disaster countermeasures. From there, we were able to find social issues and achieved the idea of solutions. 思考力総合スコア (GPS-Academic) : 44.85 (2022/03/21)</td> </tr> <tr> <td>6 (5.0 / 5.0)</td> <td>Took English for GLA (Global Communication). I thought I was accepting diversity, but I was able to understand that there is still a world I don't know about. And the way of thinking about different cultures and values has changed. Volunteered : Volunteered with high school students from Shibuya Kyokko Gakuen High School. In order to think about well-being in Fukuoka, I understood the local traditions and customs.</td> </tr> </tbody> </table>	DP	Summary of Achievement (Date: 2022/08/29)	1 (4.9 / 5.0)	I took a critical reading class and achieved a speed improvement in reading English. Furthermore, I achieved to be able to understand more deeply by questioning the written contents. GPA(3.8/4.0)	2 (4.9 / 5.0)	Took HUMAN BEINGS AND LITERATURE. I was able to see the influence of human life on literature. I was able to deepen my understanding by investigating the historical background in which the books and movies were produced.	3 (5.0 / 5.0)	Took English for GLA (Media Literacy). By analyzing media problems in global society, presenting them, and receiving feedback, I was able to not only learn new words, but also learn about the current state of global society. TOEFL ITP: 527 (2022/10/29)	4 (5.2 / 5.0)	Took INTRODUCTION TO DATA SCIENCE. I have achieved the skill of analyzing data from the results of questionnaires and thinking more clearly and logically by quantifying what factors influence the results, rather than just looking at them in words. 批判的思考力スコア (GPS-Academic) : 45.6 (2022/03/21)	5 (5.2 / 5.0)	Took RESEARCH SEMINAR I (Masaaki Ishi). By reading the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction, I was able to understand the current state of modern disaster countermeasures. From there, we were able to find social issues and achieved the idea of solutions. 思考力総合スコア (GPS-Academic) : 44.85 (2022/03/21)	6 (5.0 / 5.0)	Took English for GLA (Global Communication). I thought I was accepting diversity, but I was able to understand that there is still a world I don't know about. And the way of thinking about different cultures and values has changed. Volunteered : Volunteered with high school students from Shibuya Kyokko Gakuen High School. In order to think about well-being in Fukuoka, I understood the local traditions and customs.
DP	Summary of Achievement (Date: 2022/08/29)														
1 (4.9 / 5.0)	I took a critical reading class and achieved a speed improvement in reading English. Furthermore, I achieved to be able to understand more deeply by questioning the written contents. GPA(3.8/4.0)														
2 (4.9 / 5.0)	Took HUMAN BEINGS AND LITERATURE. I was able to see the influence of human life on literature. I was able to deepen my understanding by investigating the historical background in which the books and movies were produced.														
3 (5.0 / 5.0)	Took English for GLA (Media Literacy). By analyzing media problems in global society, presenting them, and receiving feedback, I was able to not only learn new words, but also learn about the current state of global society. TOEFL ITP: 527 (2022/10/29)														
4 (5.2 / 5.0)	Took INTRODUCTION TO DATA SCIENCE. I have achieved the skill of analyzing data from the results of questionnaires and thinking more clearly and logically by quantifying what factors influence the results, rather than just looking at them in words. 批判的思考力スコア (GPS-Academic) : 45.6 (2022/03/21)														
5 (5.2 / 5.0)	Took RESEARCH SEMINAR I (Masaaki Ishi). By reading the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction, I was able to understand the current state of modern disaster countermeasures. From there, we were able to find social issues and achieved the idea of solutions. 思考力総合スコア (GPS-Academic) : 44.85 (2022/03/21)														
6 (5.0 / 5.0)	Took English for GLA (Global Communication). I thought I was accepting diversity, but I was able to understand that there is still a world I don't know about. And the way of thinking about different cultures and values has changed. Volunteered : Volunteered with high school students from Shibuya Kyokko Gakuen High School. In order to think about well-being in Fukuoka, I understood the local traditions and customs.														
6. Achievement Details															
1. Capstone Project Title Year of Completion / Summary Supervisor															
2. Coursework (Provide details on the coursework that highlights your achievement.) English for GLA(Global Communication) RESEARCH SEMINAR I (Masaaki Ishi) INTRODUCTION TO DATA SCIENCE English for GLA (Media Literacy) HUMAN BEINGS AND LITERATURE Academic Writing Academic Reading Critical Reading SPANISH (B) Modern society and innovation DIGITAL CITIZENSHIP DIGITAL MEDIA AND SOCIETY EVIDENCE AND EVALUATION RELIGIONS AND CULTURE English for GLA V (SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS) LAW I READINGS (SOC) (LANGUAGE, CULTURE AND COMMUNICATION) INTERNATIONAL ORGANIZATIONS (GLA) STATISTICS I															
3. Co-curricular Work (Provide details on the co-curricula activities in which you participated.) Study four online program															
4. Extra-curricula Work (Provide details on your extra-curricula work.) A conversation with a Fujitsu executive Judging committee for the SDGs contest sponsored by Adobe Volunteer poster creation for Hakuoh Junior High School Fukuoka Town Well-Being Support Staff at Shibuya Kyokko Gakuen High School Campus Advisor Support staff of Ichikawa Gakuen Highschool															
5. Personal Philosophy (State how you have grown up and what you have become through your academic life at KUIS.) I would like to research "how human life affects the spread of disaster damage". I research the landslide disaster, especially focus on the disaster which happened in Hiroshima prefecture. This disaster connected to progress in Human Life. If human life had not evolved on the cliffs, there would have been no victims caught up in the landslides.															
6. Career Goals (State your career goals in relation to your personal philosophy.) After graduating, I would like to go on to a graduate school abroad and learn data analysis. In particular, I would like to learn more about Institutional Research and use those skills in a higher education institution. (2023/01/12)															

2. 教員の組織体制について

本学部の教員組織の編成の考え方及び特色は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

(1) 教員配置の考え方

本学部では、多様な学問領域にわたる幅広い教養とグローバルな事象を多面的に理解するための専門的知識を有する人材を育むために、各専門分野で博士号もしくはそれに準じる専門的な知識・経験を有する者を教員として採用・配置する。

また、英語を含む語学の授業では少人数のクラス編成を基本としており、このようなクラス編成が可能となるよう手厚い教員配置を行う。特に、各言語の教授法やコミュニケーション学等の修士号取得者を中心に、英語ネイティブ教員を積極的に採用、配置する。

なお、本学部の教育を実施する専任教員総数は 14 名で、教授 5 名、准教授 4 名、講師 5 名からなる。また、学位取得者は、博士号 11 名、修士号 3 名であり、78.6%が博士の学位を有している。

(2) 教員配置への配慮

本学部で開講する主要授業科目（GLA 基礎科目、専門教養科目、演習科目）には基本的に教授または准教授を配置することとしているほか、次のとおり授業科目への教員配置に配慮している。

① 英語科目

「英語科目」の中で初年次教育の一環として重要視される「English for Academic Purposes」、「Self-Directed Learning」においては、英語教育を専門とする教授又は准教授の専任教員を配置し、きめ細かい指導を行う。

② GLA 基礎科目

本学部ならではの科目区分として、本学部での学びとキャリアを学生自身が主体的に考え方向づけることを目的とした「GLA 基礎科目」のうち、特に主要な科目として位置づける「グローバル・ディスカバリー I・II」、「キャリアデザイン (GLA)」、「グローバル・キャリア」については、その重要性から学長、学部長、教授が科目を担当する。

③ 専門教養科目

2～4 年次に配当される「Humanities (人間と文化)」、「Societies (社会と共生)」、「Global Studies (グローバル・スタディーズ：地域研究と国際関係)」の 3 領域にわたる「専門教養科目」(24 科目)のうち、13 科目を教授・准教授が担当する。

④ 研究科目

本学部のリベラルアーツ教育を代表する「研究科目」は、「卒業研究」(キャップストーン・プロジェクト)(4 年次)を学びの集大成として位置づけ、「研究演習」I・II・III(2～4 年次)を通してその準備を進めることになるが、その教育研究指導は本学部専任の教授 3 名、准教授 4 名、講師 3 名の計 10 名体制で行う。

(3) 研究体制

本学部では、グローバル時代の教養の養成にふさわしい、「Humanities (人間と文化)」、「Societies (社会と共生)」、「Global Studies (グローバル・スタディーズ)」の 3 分野に、人文学と社会科学の領域を専門とする専任教員を配置し研究教育を推進する。

具体的には、Humanities 分野の担当者として歴史学(1 名)、哲学(1 名)、日本倫理想(1 名)、宗教学(1 名)の専門家を、Societies 分野の担当者として社会学(2 名)、社会言語学(1

名)の専門家を、Global Studies 分野の担当者として政治学・国際政治学・国際経済学(3名)、国際法(1名)の専門家を配置する。

この3分野及び学際的な研究を行うための会議体を設け、これら領域における研究活動の促進を図るほか、「専門教育科目」及び「演習科目(講読演習)」の科目調整も行う。

また、学生の研究活動に必要な学術的な日本語基礎力の養成と、海外の大学において学修・研究を行うに足る高度な英語力の養成のために、日本語教育を専門とする専任教員(1名)と英語教育及び英語言語学を専門とする外国人専任教員(2名)を配置する。

なお、本学部の専任教員は、教授5名、准教授4名、講師5名からなる。うち、11名が博士号を、3名が修士号を取得しており、博士号取得者の割合は78.6%である。

以上の教員組織の編成の考え方及び特色に基づき、2022年度の実施状況は以下のとおりとなっている。

(1) 教員配置の状況

年度	配置状況
2020-2021	本学部の教育を実施する専任教員数14名(教授5名、准教授4名、講師5名)について、2021年3月に、教授1名が就任を辞退したほか、同年4月に准教授1名が教授に昇任したことにより、2021年4月からは13名(教授5名、准教授3名、講師5名)となった。就任を辞退した教授1名が担当する授業科目は、当人が兼任教員として担当するため2021年度における授業に支障はなかった。
2022	2022年4月から准教授1名が教授に昇任、講師1名が准教授に昇任し、特任教授1名が学内配置換えて、新たに担当となったことにより14名(教授7名(特任教授1名を含む。)、准教授4名、講師3名)となった。

(2) 研究体制

Societiesの分野、Global Studies 分野及びHumanities 分野とも昨年度から研究体制に変更はなかった。

なお、昨年度に引き続き学科会議としてのGLA運営委員会において、教育研究活動を促進したほか、学部の円滑な運営を図った。

(3) 年齢構成

2022年5月1日現在における専任教員の年齢構成は、60歳以上2人、50~59歳6人、40~49歳2人、30~39歳4人であり、完成年度までに定年となる教員はおらず、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。

IV. 学生支援の取組

1. 学習支援の取組について

(1) 学生支援奨学金

本学部では、就学を支援する奨学金として、次のとおり「特待生奨学金」と「成績優秀者奨学金」の2つの奨学金を設けている。

	GLA Freshman Scholarship ＜特待生奨学金＞	GLA Outstanding Scholarship ＜成績優秀者奨学金＞
目的	入学試験の成績優秀者に支給することで、優秀な学生の確保に寄与	入学後、優秀な成績をあげた学生を顕彰
対象要件	一般選抜すべての入試区分において成績上位で合格し、入学した者が対象。	2年次終了時点で成績優秀（GPA3.0以上）な学生で「特待生スカラーシップ」の対象者を除く
対象者数	15名以内	6名以内
奨学金額	最大200万円	100万円
支給時期	3年次（6月頃）	3年次（6月頃）

「特待生奨学金」は、新しい学生に大いに期待すること、また文字通りいきいきと学生生活を送り、グローバル社会に貢献できる人材に育てて欲しいという想いから創設した。3年次後期のニューヨーク州立大学（SUNY）への留学費用相当額（渡航費、授業料、寮費など）を給付する。

【給付実績】

入学年度	給付実績	備考
2021	1名	
2022	8名	2024年度（3年次）に給付
2023	7名	2025年度（3年次）に給付

「成績優秀者奨学金」は、入学後2年間の成績が優秀であることを評価し、さらに今後も努力を続け、グローバル・リベラルアーツ学部においてリーダー的な存在として活躍して欲しい学生へ支給する。

入学年度	給付実績	備考
2021	11名	2025年度（3年次）に給付

(2) GLA Community の活動について

GLA 学部の学生・教員・職員がフラットに意見交換し、交流及び活動していくプラットフォームとして、昨年度に引き続き GLA Community を運営した。毎週金曜日の5限に定例会

を開催するとともに、前期（5月）と後期（11月）には全体会を開催して、学生主体で取り組みたい活動の提案や共有をおこなった。また、4月にはGLA Communityの企画として新入生向けの交流会を実施した。

2022年度前期は環境関係の企画が多く提案され、7月には学内で打ち水イベントを開催した。後期の全体会では、学生提案によるAcademic Conferenceという新規企画が提案され、学生が提案するテーマに関するプレゼンテーションとディスカッションの場を設けることになり、毎週水曜日の夕方に定期開催されている。11月には千葉ステーションビル（ペリエ海浜幕張）主催のSDGsにイベントに出展し、フェアトレード商品の展示や高橋真奈先生のゼミメンバーが企画・開発した「難民人生ゲーム」の体験会を実施した。

GLA Community 企画 新入生交流イベントの様子



2. キャリア支援の取組について

(1) キャリア教育

本学部における教育課程内の取組として、以下2つの授業科目、「キャリアデザイン (GLA)」(1年次後期)と、「グローバル・キャリア」(3年次前期)を必修科目として開設している。

① 「キャリアデザイン (GLA) (1年次後期必修)

本科目は、外部環境(国際政治、経済、社会、技術革新)や労働環境(新卒・転職・起業)を理解したうえで、大学進学後の進路(ゴール)とその道筋(パス)を考えていくための授業である。グローバルな舞台でグローバル・リベラルアーツ学部での学びを活かすにはどのような仕事があるのか。多国籍の人々が集まる組織ではどのような英語力が求められるのか。外国人と一緒に仕事をするために必要なことは何か。仕事と家庭・子育てをどう両立させるのか。おカネとどう向き合えばいいのか。講義やグループディスカッションを通して「人生100年時代」を見据えた仕事と人生について考えるとともに、グローバル人材としての資質も身に付けていく。外国人と英語で仕事をするための準備講座という性格上、授業は英語と日本語を併用する。

② 「グローバル・キャリア」(3年次前期必修)

本科目では、グローバル化する社会で自分のキャリアを確立し、世界にインパクトを与えているプロフェッショナルたちの事例から、自己流のキャリアを確立するための思考や態度を、講義やグループディスカッションを通じて学んでいく。また、現在の自分と彼等プロフェッショナルとの比較を通じて、自己を客観視する力を身に付けるとともに、自身が描く卒業後のグローバル・キャリア像に対する課題を抽出し、アクションプランを立てることで、3年次後期の長期海外留学での実践に繋げていく。講義は英語と日本語を併用する。

(2) キャリア形成支援

本学部において養成する人材像は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に次のとおり定めている。

- (1)多様な学問領域にわたる幅広い教養
- (2)人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解
- (3)グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力
- (4)論理的かつ批判的な思考力
- (5)社会的な課題の発見と解決に貢献する力
- (6)異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

これらの能力を身につけ、現代社会が直面する諸問題を平和的に解決するべく、リーダーシップを発揮して立ち向かうことができる自立した人材を育成する事を目的としている。

本学部におけるキャリア形成支援について、「設置の趣旨等を記載した書類」に「(2) 教育課程外の取組」として次のとおり記載している。

この養成する人材像に基づき、①社会貢献に力を入れて取り組む企業、②国家公務員（外務省など）・非営利団体（JICA や国際交流基金など）及び③国際公務員（国連事務局、国連開発計画など）の3つのキャリア（進路）に対し、効果的に学生を輩出すべく、本学部、キャリア教育センター、そしてキャリア教育委員会の3組織からなる支援体制を構築する【資料16】。

また、「動機付け」、「選択」、「専念」からなる3つのキャリア形成フェーズを設定し、各フェーズにおいて独自のキャリア支援を促すことで、さらに効果的なキャリア支援が可能になるものと考えている【資料17】。

① 第1フェーズ：「動機付け」（入学前から1年次まで）

キャリア・アドバイザーやメンターとの接触を通じ、早期から学生に3つのキャリア領域を意識づける段階である。具体的な取組は以下のとおり。

- ・3つのキャリア形成への意識付けを目的とした「入学前スタートアップセミナー」及び「入学時オリエンテーションキャンプ」（全員参加）
- ・キャリアを見据えた4年間の学修・学生生活をサポートする「担任制度」の導入
- ・社会起業家やCSV（Creating Shared Value: 共通価値の創造）企業、あるいはJICA や政府機関などによる「キャリア講座」、「キャリアセミナー」の実施（全員参加）

② 第2フェーズ：「選択」（2年次）

卒業後のキャリアを具体的に選択する段階。具体的な取組は以下のとおり。

- ・3つのキャリア領域で活躍している現役社会人などによる「社会人ゼミ」の実施・3つのキャリア領域における「インターンシップ」などの実践機会の提供。

③ 第3フェーズ：「専念」（3年次から4年次）

卒業後のキャリア形成に向けて必要な資質・スキルの取得に集中的に取り組む段階（特に長期留学帰国後の3年次2月～3月の期間を利用する予定）。具体的な取組は以下のとおり。

- ・履修モデルを参考とした科目履修の推奨
- ・スキルアップ・キャリア対策講座（「PCスキルアップ講座」、「公務員対策講座」、「在外公館派遣員勉強会」、「大学院進学セミナー」など）の実施

以上のキャリア形成支援計画に基づき、2022年度に計画又は実施した内容は次のとおり。

(I) 第1フェーズ

2年目の第1フェーズであるが、1年目の経験を踏まえ、修正を加えつつ概ね順調に推移している。

第1フェーズの目標達成の為に、以下の取り組みを実施した。

●フレッシュマンオリエンテーションキャンプ

学生が想定している進路のイメージを把握する目的で、ポートフォリオに「キャリア

目標」とそれを実現する為の「小目標」の入力を実施した。

●必修科目「キャリアデザイン」の実施（計15回）

「人生100年時代」を見据え、世の中にはどのような仕事があるのかを理解し、自分はどういうキャリアを歩みたいか、それにはどのような準備が必要なのかを考え、学生時代の勉強や課外活動に生かすことを目標とし、GLAの学生にとって魅力ある仕事は何か。大学での学びをどのように活かしたらいいのか。講義やディスカッション、現役社会人（ゲストスピーカー）の話を通して、グローバルな視点で自分の将来について考える事を促す事が出来た。

(2) 第2フェーズ

第2フェーズでは、学生が卒業後のキャリアを具体的に選択し、目標進路に向けて残り2年間の学生生活の行動計画を描くことを到達目標として定めており、以下の取り組みを実施し、概ね順調に推移している。

●GLA キャリア・メンター制度

3つのキャリア領域への進路選択に繋がるよう、制度を整備し、5名の社会人をGLA キャリア・メンターとして招聘した。

学生は月1回のGLA キャリア・メンターとの面談でのアドバイスをもとに具体的な進路目標を定め、3年次以降の学生生活の過ごし方を明確にするための一助となった。

但し、上手くメンター制度を利用出来ない学生が居た事、メンターが社会人と言う事で、なかなか面談の設定が出来なかったという課題はあったので、次年度以降は改善が必要となる。また、メンター間での情報共有が出来づらい環境であった事から、月1回の「メンターミーティング」を実施し、改善を図った。

次年度以降は、面談の情報を教職員で共有できるよう、システムを準備中である。

●インターンシップ」の提供

学生が最もインターンシップに参加する3年次の夏休みは、SUNY 留学の為に既に日本にいない事から、2年次でのインターンシップへの参加を推奨し、その行き先として、本学園が所有する英語研修施設ブリティッシュヒルズでのインターンシップを提供した。

8名の応募があり、選考の結果、4名が参加し、卒業後のキャリア選択の一助となった。

<イベント・セミナーの実施>

第1、第2フェーズを通じて、目標とするキャリアを達成するための機会として、以下のイベントやセミナーがGLA 学部の学生にも通知がされた。

1	2022年4月8日	低学年向けインターンシップガイダンス
2	2022年4月11日	GLA キャリア・メンターによる講演会

3	2022年4月12日	GLA キャリア・メンターによる講演会
4	2022年4月13日	GLA キャリア・メンターによる講演会
5	2022年4月18日	GLA キャリア・メンターによる講演会
6	2022年4月20日	GLA キャリア・メンターによる講演会
7	2022年4月21日	公務員試験対策講座ガイダンス
8	2022年5月25日	メキシコ就職セミナー
9	2022年5月25日	神田外語大学×サイバー大学合同キャリアワークショップ
10	2022年5月30日	外国語を活かすキャリアレクチャーVol.2
11	2022年6月28日	KUIS×JEF 千葉レディース Talk Live
12	2022年6月30日	低学年からキャリア形成セミナー
13	2022年7月1日	SALC SDG AWARENESS WEEK キャリア講演会
14	2022年7月6日	3年生対象就活プログラム
15	2022年7月22日	外国語を活かすキャリアレクチャーVol.3
16	2022年7月23日	公務員ガイダンス
17	2022年8月2日	認定 NPO 法人 Teach For Japan 採用説明会
18	2022年8月27日	公務員合同業務説明会
19	2022年9月9日	まくはり Internship Project
20	2022年9月14日	KUIS Agora－Let's think！－
21	2022年9月27日	大学院進学希望者ガイダンス
22	2022年9月29日	低学年対象キャリア形成セミナー
23	2022年10月1日	千葉県大学交流会
24	2022年10月17日	低学年対象キャリア形成セミナー
25	2022年10月27日	千葉大学大学院 説明会
26	2022年10月29日	SPI 対策講座①
27	2022年11月4日	国際大学大学院 説明会
28	2022年11月5日	SPI 対策講座②
29	2022年11月14日	外国語を活かすキャリアレクチャーVol.4
30	2022年11月16日	北関東3県の優良企業紹介セミナー①
31	2022年11月17日	北関東3県の優良企業紹介セミナー②
32	2022年11月18日	北関東3県の優良企業紹介セミナー③
33	2022年11月26日	SPI 対策講座③
34	2022年12月1日	メキシコ就職セミナー
35	2022年12月12日	外国語を活かすキャリアレクチャーVol.5
36	2022年12月15日	低学年対象キャリア形成セミナー
37	2023年1月10日	低学年対象キャリア形成セミナー
38	2023年1月17日	小論文対策セミナー

39	2023年1月17日	2年生対象就活準備ガイダンス
40	2023年1月20日	マレーシア就職セミナー
41	2023年2月2日	金融業界を深掘り講座
42	2023年2月20日	個別会社説明会
43	2023年3月20日	千葉県警察通訳翻訳員説明会
44	2023年3月28日	学生向け 公務員試験対策講座ガイダンス
45	2023年3月30日	ザ・ペニンシュラ東京個別説明会

上記のうち、15のイベント、セミナーにのべ86名のGLA学部の1,2年生が参加した。

(3) 第3フェーズ

第3フェーズは、卒業後のキャリア形成に向けて必要な資質・スキルの取得に集中的に取り組む段階として、下記のような取り組みの準備を概ね順調に推移している。

●必修科目「グローバル・キャリア」

本学学長による授業。

グローバル社会でキャリア形成を試みる際にIDENTITYの自覚は一つの出発点になる。この科目で学生がSUNY留学中に自分たちが世界のマイノリティーであることを自覚しながらIDENTITYを考えそれを英語で表現し、留学先で出会う多様な友人達と議論が出来るように準備中である。

●GLA学部3年生の為の就職ガイダンス

3年生向けの就職ガイダンスは実施されるが、GLA学部の3年次は他学部と同じスケジュールで就活に臨むことは難しいので、GLA学部に特化したガイダンスを実施し、現実問題として、SUNY留学中に既に選考が始まってしまう企業がある事等を伝える場を設ける。その際に下記のようなキャリアサポートの計画を伝える。

●キャリア教育部職員との面談

本来、3年次の後期に行われている面談であるが、SUNY留学で不在であるため、前倒して、前期のうちに3年生全員との面談を実施する。

●ゼミ担当教員とキャリア教育部職員との打ち合わせ

本学部は、2年次の後期からゼミが開始されている為、非常にゼミの担当教員と学生の繋がりが強い。このため、よりの確なキャリアサポートの実施の為、教員から見た各学生の特徴等の確認を実施する。

●SUNY留学から帰国後、2024年1月上旬にGLAキャリアDAY(仮)の実施 実施内容(案)

- ①これからの就職活動の進め方について(GLA 学部での学びをどう活かすかを中心に)
- ②就職活動における注意事項
- ③履歴書・エントリーシート対策
- ④面接対策
- ⑤業界・企業セミナー

●TOEIC の受験

帰国後即の 1 月の受験が可能となるよう、申込等の学内調整を実施する。

V. 管理運営の取組

1. 情報公表の取組について

(1) 情報公開

本学部における情報の公表について、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

本学は、学校教育法第113条及び学校教育法施行規則第172の2第3項の規定に基づき、教育研究に関わる公的な機関として社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育研究活動の質の向上を図り、成果を広く社会に提供し、社会の発展に寄与することであることを認識していることから、積極的にその成果等を公表している。

情報公開の方法は、主として学内外からのアクセス及び最新情報の更新が容易なホームページ上での公表を基本とし、その他対象者に応じて紙媒体等で情報を公表している。

(情報公表一覧) <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/>

なお、ホームページは各ステークホルダー（在学生、受験生、卒業生、保護者、一般・企業の採用担当者、一般市民）に対してコンテンツが分類されており、それぞれのステークホルダーが欲しい情報が容易に参照できる工夫がなされている。本学部においても各々のステークホルダーが求める情報とともに、本学部の教育研究活動にかかる公表事項をホームページ上に掲載することで、適切な情報発信に努める。

以上の情報の公表計画に基づき、本学Web上で情報を公開している。

上記以外の2022年度における公開状況（学生の声やお知らせなど）は次のとおり。

- ・ IOM（国際移住機関）「移住映画で学ぼう！多文化共生」キャンペーンによる授業を実施しました 2022.06.03
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/205653/>
- ・ 2023年度（2023年4月入学者対象）総合型選抜〈前期〉入学者選抜要項を公表しました 2022.06.13
- ・ GLA 学部一期生の挑戦を記録する「JOURNEY to CHANGE（学生たちの成長記録）」ページを更新しました 2022.06.19
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/gla/journey/>
- ・ 公募学校推薦入試、総合型選抜〈後期〉の募集要項を公開しました 2022.07.08
- ・ GLA 学部のグローバル・チャレンジ・タームが三菱みらい育成財団「成果発表表彰」においてグランプリ獲得 2022.10.18
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/227556/>
- ・ Tableau 企業分析 AWARD2022 で準優勝！ 2022.12.22

https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/exploration/240664/#new_tab

- ・《平和シンポジウム 2023》あの日から1年~Think and Take a Step toward Peace~を開催
2023.02.22

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/253023/>

(2) オープンキャンパス、セミナー等

本学部では、情報公開の一環として、受験生・高校生向けに大学紹介のオープンキャンパスを開催しています。オープンキャンパスは「オンライン」と「オンキャンパス」のハイフレックス型で開催しており、「オンライン説明会」では、自宅にいながら大学の概要や入試情報を知ることのでき、「キャンパス見学会」では、来校してグローバルな世界を体験できます。

4月17日(日)	オンライン説明会	GLA 学部概要説明・入試制度説明
4月29日(金)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会 ~5月1日(日)の3日間
5月15日(日)	オンライン説明会	GLA 学部概要説明・入試制度説明
6月12日(日)	オンライン説明会	GLA 学部概要説明・入試制度説明
6月15日(水)	SDGs ビジョンづくりワークショップ	
6月19日(日)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会
7月9日(土)	オンライン説明会	GLA 学部概要説明・入試制度説明 留学生のためのオンライン説明会同日開催
7月10日(日)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会
7月16日(土)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会
7月17日(日)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会
7月23日(土)	受験対策・進路探究DAY	来校型の受験対策・進路探究イベント
7月24日(日)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会
7月30日(土)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会
7月31日(日)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会
8月1日(月)	オンライン説明会	GLA 学部概要説明・入試制度説明 留学生のためのオンライン説明会同日開催
8月2日(火)	集中レッスン	高校生対象の授業体験(ELI 教員による英語レッスンと専任教員による教養講義)(~3日の2日間)
8月2日(火)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会
8月3日(水)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会
8月4日(木)	受験対策・進路探究DAY	来校型の受験対策・進路探究イベント

8月19日(金)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会 20日及び21日の3日間
9月11日(日)	オンライン説明会	GLA 学部概要説明・入試制度説明 留学生のためのオンライン説明会同日開催
9月18日(日)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会
10月15日(土)	オンライン説明会	GLA 学部概要説明・入試制度説明
10月16日(日)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会
12月11日(日)	オンライン説明会	GLA 学部概要説明・入試制度説明
12月18日(日)	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会

2. 教育内容等の改善を図るための取組について

(1) 自己点検・評価

本学における自己点検・評価の取組について、「設置の趣旨等を記載した書類」として次のとおり記載している。

(1) 実施方法など

本学では、学則第 1 条の 2 に「本学の教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育活動の状況並びに研究について、自ら点検及び評価を行う」と定めている。2012 年以降は、同点検・評価を通して明らかになった改善点を中期経営計画に落とし込み、PDCA サイクルにより、改善・改革に取り組んでいる。

自己点検・評価項目は、「神田外語大学質保証・質向上に関する規則」第 5 条に次のとおり定めている。

- ・使命、目的及び教育目的
- ・キャリア支援
- ・教育課程
- ・学生支援
- ・学生の受入れ
- ・施設・設備及び環境
- ・教育研究組織及び教職員
- ・管理運営
- ・内部質保証
- ・前各号に掲げるもののほか、質保証・質向上委員会が適当と判断する重要事項

(2) 実施体制

学内に、自己点検・評価の実施並びにその結果の活用及び公表に関する業務を統轄する質保証・質向上委員会を設置している。教職員一体となった全学的な取組を担保するため、同委員会の構成員は、副学長、学部長、研究科長、附属図書館長、各学科の主任、教養教育運営部会長、各分野長、教務委員長、事務局長、大学改革室長及び学長が指名した者となっている【資料 12】。

(3) 第三者評価

本学は、2005 年度及び 2012 年度に引き続き、2019 年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による第 3 回目の認証評価（第三者評価）を受審し、同機構が定める大学評価基準に「適合」しているとの評価を得ている。実施にあたっては、自己点検・評価同様に、質保証・質向上委員会が行い、その事務は総務部で行うこととしている。

以上の自己点検・評価の取組に基づき、本学部では、7 年に一度実施する外国語学部を含めた全学の自己点検及び第三者評価（実施は質保証・質向上委員会）の取組とは別に、設置前年度（2020 年度）から完成年度（2025 年度）までの 5 年度にわたり、以下の自己点検・評価項目に基づき、各年で実施することとした。

2022 年度自己点検・評価は 2022 年 4 月から 8 月にかけて大学改革室及び GLA 学部

運営委員会が行ない、本報告書を大学ホームページで公開することとした。

- I. 理念・目的
- II. 学生受入れ（入学者選抜）の取組
- III. 教育課程編成の取組
- IV. 学生支援の取組
- V. 管理運営の取組

(2) FD 委員会

本学における教育内容等の改善を図るための組織的な取組みについて、「設置の趣旨等を記載した書類」として次のとおり記載している。

本学では、「神田外語大学プロフェッショナル・ディベロップメント委員会規則」に基づき、「プロフェッショナル・ディベロップメント委員会」を設置し、PD(Professional Development)活動の組織的な実施に努めている（本学では、FDをPDと称す）【資料13】。同委員会は、副学長3人（うち1人が委員長）、各学科主任、各研究分野長（言語研究分野・総合文化研究分野・コミュニケーション研究分野・地域国際研究分野）、教務学監、大学院研究科長、ELIディレクター、SALCディレクター、PDワーキンググループメンバー6人（ELI所属教員を含む）、関連部署の職員で構成されている。2020年度PD委員会は、最低4回の開催を予定しており、PDワーキンググループは定期的にメンバーを招集し、PDの企画・調整を行う予定である【資料14】。本学部のPD活動は、学部長（兼副学長）が中心となり、全学的な取組としてのPD及び本学部独自のPDを推進する計画である。特に本学部が目指すアクティブ・ラーニングによる授業、及び感染症拡大の影響によるオンラインでの効果的な授業手法について、今年度から専任・兼任教員を対象にPDを行う計画である。またこれまで外国語学部（全学）を対象とした以下のPD活動についても、PD委員会が運営のもと、本学部でも実施する。

(1) 学生による授業評価アンケートの実施と授業改善

「教務委員会」が中心となり、各学期末に、基本的に全開講科目を対象として、学生に「授業評価アンケート」を実施している（教育の質保証への学生の参画）。同結果は各担当教員にフィードバックし、各授業の有効性を検証するとともに、当該検証結果を踏まえて恒常的・継続的な授業改善を行っている。

(2) 教職員による授業参観

再任審査対象（テニュアトラック）の教員、特任教員、語学専任講師、留学生別科教員及び新任の全非常勤講師を対象として授業参観を行っている。当該授業科目を管理する教学組織（学科、専攻、「研究分野会議」、「教養教育運営部会」等）の教員が、複数名で授業参観を実施し、その結果をフィードバックして授業改善に役立てている。また、2012年度からは職員による授業参観も行っており、終了後は、改善や工夫に資するべく、担当教員にオブザーションレポートを提出している。

(3) PD 講演会

言語教育研究所が主催する「Bag Lunch Seminar」は、PD講演会の一環として行われており、開学以来、延べ200回近い開催実績がある。このセミナーの発表者は学内の教員が中心であるが、ELIコンサルタントを含む外部講師による発表も行われ、研究成果が共有されており、本学部の根幹を担う高度な言語教育を提供するうえで、教員同士の学び合いの場となっている。このほか、きめ細やかな学生支援に欠かせないメンタルヘルスに関わる基礎知識やカウンセリング手法を学ぶ研修会（メディカルセンター主催）や、研究資金を獲得するう

えて欠かせない研究力の向上に資するセミナー（学術・研究支援部主催）などを実施している。

(4) 奉職時（入職時）研修会

本学教育職員としてのキャリアを円滑にスタートできるように、専任の新任教員（参加義務）及び非常勤教員（任意）を対象に、理事長・学長の講話、テニユアになった教員による対談及び事務局説明を行う。また、1月下旬を目途に、着任後に生じた課題等についてテニユア教員と対話ができるフォローアップ研修会を実施する予定である。

以上の教育内容等の改善を図るための組織的な取組みに基づき、2022年度におけるFD委員会の取組は以下のとおりである。

① 実施体制

a. 委員会の設置状況

全学委員会として、神田外語大学ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置。

b. 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

委員会は、副学長、研究科長、学部長、各学科長及び各専攻長、教務委員長、教養教育運営部会長、教育研究に関わる学内附属機関所属教員のうちから学長が指名した者、事務局長及び学長室ゼネラルマネージャー、その他学長が指名した教職員により構成され、年5回開催。

c. 委員会の審議事項等

委員会の審議事項は、FDに関する研究・企画運営、情報収集及び教育機関との連携、活動の評価及び報告に関することとしている。

② 実施状況

a. 実施内容

ア 学生による授業評価アンケートの実施と授業改善

イ 教職員による授業参観・授業見学

ウ FD講演会

エ 入職時研修会

b. 実施方法

ア ③に記載

イ 再任審査対象（テニユアトラック）の教員、特任教員、語学専任講師、留学生別科教員及び新任の全非常勤講師を対象として授業参観を行っている。また授業見学として、教職員が他の教員の授業を見学し、お互いから学び合うFD・SDも実施。

ウ 授業のグッドプラクティス（事例紹介）や授業実践に係るセミナーが中心となる。

エ 専任の新任教員（参加義務）を対象としている。

c. 開催状況（教員の参加状況含む）

ア ③に記載

イ 授業参観については、対象者45名を実施。授業見学については、授業公開教員数13名、公開科目数22科目、見学者数は延べ159名。

ウ 学習者本位の教育とシラバスの重要性に関するFDセミナーを2022年12月7日実施。110名の教職員が参加。

また、授業実践事例やFD関連情報を共有するためのサイト（Google Classroom）を設けており、168名の教職員が登録している。

エ 14名の新任専任教員に対し、理事長・学長の講話、テニユアになった教員による対談及び事務局説明、学内の施設見学を実施。

また、事務局からの案内事項をオンデマンドコンテンツとして事前に共有。それらは既存の教員（専任・非常勤）にも公開されている。

d. 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

ア アンケート結果を各担当教員にフィードバックすることにより、各授業の有効性を検証するとともに、当該検証結果を踏まえて恒常的・継続的な授業改善を行っている。

イ 教員による授業参観は、その結果をフィードバックし、対象教員はリフレクションシートを提出することで授業改善に役立っているほか、教職員による授業見学終了後は、改善や工夫に資するべく、担当教員にオブザベーションレポートを提出している。

ウ 授業評価アンケートを、より授業改善に役立てやすい内容に刷新したことに伴い、学習者本位の教育とシラバスの重要性を改めて認識し自身の授業とシラバスの書き方を見直す機会とすべく、授業評価アンケートの活用方法をFD委員が解説したほか、FD活動の盛んな他大学の教員を招聘し講演会を行った。

エ 本学教育職員としてのキャリアの円滑なスタートに資している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a. 実施の有無及び実施時期

FD委員会の協力の下、「教務委員会」が中心となり、各学期末に全開講科目を対象として、「授業評価アンケート」を実施。

b. 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果は、大学ホームページを通じて学生・一般に公開を行っている。

また、各担当教員にフィードバックし、各授業の有効性を検証している。

加えて、各担当教員はアンケート結果に対するフィードバックを行っており、その内容は学生に共有されている。

3. 管理・運営体制について

本学部の管理・運営体制については、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

本学部においては、上記の各種委員会のうち、教学の重要事項を審議する学務審議会の構成員となるが、学部の特異性と学生数を踏まえ、外国語学部と共通の全学委員会（例えば、「学生委員会」、「キャリア教育委員会」、「プロフェッショナル・ディベロップメント委員会」、「入学試験委員会」等）と学部独自で運営するもの（例えば、「教務委員会」、「国際交流委員会」等）とで構成する計画である。

2021年4月GLA学部設置に伴い、新たにグローバル・リベラルアーツ学部教授会（以下「教授会」という。）及びグローバル・リベラルアーツ学部運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置き、原則毎月第1週水曜日に開催される運営委員会において学部の管理・運営に関わる事項を審議し、当該事項は、入試、教務、教養教育など外国語学部と共通の委員会に報告のうえ、外国語学部との合同教授会において審議又は報告した。

神田外語大学学部教授会規則（抜粋）

第1条 この規則は、神田外語大学学則第39条第2項の規定に基づき、外国語学部及びグローバル・リベラルアーツ学部の教授会（以下「学部教授会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

第2条 第2条 学部教授会は、各学部の専任教授、准教授及び講師をもって組織する。

2 前項の講師は、満56歳に達する年度以降については、学部教授会の構成員とはならない。

（合同開催）

第5条 学部教授会は両学部による合同で開催することができる。

2 前項により開催する場合に必要な事項は別に定める。

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部運営委員会規則（抜粋）

（設置）

第1条 グローバル・リベラルアーツ学部（以下「本学部」という。）に、本学部教授会が必要と定めるものを審議し、学部の円滑な運営を図るため、グローバル・リベラルアーツ学部運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（組織）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 本学部長
- (2) グローバル・リベラルアーツ学科長
- (3) 本学部に所属する専任教員

- (4) 教務部ゼネラルマネージャー
- (5) 大学改革室長
- (6) 本学部長が指名した教職員

(審議事項)

第5条 委員会は、本学部の次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程、授業その他の教務に関する事
- (2) 学力試験の実施・実施方法その他の入学者選抜に関する事
- (3) 学生の海外研修・留学その他の国際交流に関する事
- (4) 学生の厚生、課外活動その他の学生生活一般に関する事
- (5) 学生のキャリア教育、卒業相談その他の卒業後の進路に関する事
- (6) その他本学部教授会が必要と定める事

(1) 運営委員会における審議・報告事項

開催日	回数	報告・審議事項
2022年4月13日(金)	第1回	1.報告事項： (1)2022年度 GLA 学部について (2)2022年度 Study Tour について (3)TOEFL で高得点を取得した1年生の英語授業免除について (4)休退学等 GLA の学籍情報について (5)GLA 奨学金について (6)GLA1 年生対象「関心のある授業科目・学問領域」についてのアンケート調査 (7)留学生別科生との交流について (8)その他 ①新入生の Anews アカウント登録について ②施設利用履歴システムへの新入生データの登録について ③教務委員より（成績確認に関する注意点について） 2.審議事項： (1)2023年度 GLA 学部入試 (2)GLA 学部卒業要件としての留学について
2022年5月11日(水)	第2回	1.報告事項： (1)休退学等 GLA の学籍情報について (2)BH・KUIS での海外スタディ・ツアーについて (3)その他 ①GLA Commons の使い方について

		<p>②GLA Commons での授業の入れ替えについて</p> <p>③令和 3 年度設置計画履行状況等調査の結果について</p> <p>④国連・国際移住機関 (IOM) とのコラボレーション授業について</p> <p>⑤GLA Community の活動について</p> <p>⑥Anews 利用状況について</p> <p>⑦KUIS ポートフォリオの利用について</p> <p>⑧学生募集関連業務の調整について</p> <p>2.審議事項：</p> <p>(1)指定校推薦施策（事務局提案）の検討</p> <p>(2)前年度指定校の見直し</p> <p>(3)高等学校からの新規指定・継続要望の検討</p> <p>(4)研究演習について</p> <p>・GLA 学部ゼミ運営 (ML、事務対応) に関するお伺い</p> <p>(5)その他</p> <p>・「外国語を活かすキャリア」イベントの GLA への周知方法について</p>
2022 年 6 月 1 日 (水)	第 3 回	<p>1.報告事項：</p> <p>(1)第 2 ターム (6/6～) に関する各情報共有</p> <p>・授業、ACP、ST3.0 期間中の教室調整等</p> <p>・芸術文化論 I に関する情報共有</p> <p>(2)2022 海外スタディ・ツアーについて</p> <p>(3)研究演習 I について</p> <p>(4)キャリア・メンター制度について</p> <p>(5)課外活動団体の顧問</p> <p>(6)その他</p> <p>①科目名の変更について</p> <p>②7 月の TOEFL ITP における GLA I 年全員実施案について</p> <p>③GLA Community のプロジェクト内容の共有について</p> <p>④GLA Commons の利用最終時間について</p> <p>2.審議事項：</p> <p>(1)スタディツアーに参加できない場合の扱いについて</p>

2022年7月6日(水)	第4回	<p>1.審議事項： (1)GLA 学部必修科目「グローバル・キャリア」の評価方法の変更について</p> <p>2.報告事項： (1)GLA 学部生へのキャリアサポートについて ・大学院進学希望者の対するガイダンス ・キャリア教育部との面談について ・キャリア・メンター制度について</p> <p>(2)国内版スタディツアーについての報告 (3)KUIS GLA 学部生向けブリティッシュヒルズ インターンシップについて (4)GLA1 年生 TOEFL 全員受験について (5)学生委員会</p>
2022年9月14日(水)	第5回	<p>1.審議事項： (1)GLA コモンズ内での食事について</p> <p>2.報告事項： (1)TOEFL ITP の履修免除・単位認定、研究演習 I、2023 年度学年暦（案）について (2)海外スタディ・ツアーの満足度アンケートの結果報告について (3)入試スケジュールについて (4)大学院進学希望者向けガイダンスの学生への告知について (5)2022 年スクールフェアでの海外スタディ・ツアー成果発表について (6)グローバル・ディスカバリー（フィールドワーク）</p> <p>3.0 単位認定について (7)KP の教員用説明動画について (8)その他 ①施設利用把握システムのチューニングへのご協力依頼 ②環境省事業への学生のオブザーバー参加について</p> <p>3.ご案内 (1)浜風祭期間中の GLA 学部の FD 活動について (2) SUNY 留学説明会の開催について</p>
2022年10月12日(水)	第6回	<p>1.審議事項： (1)総合型選抜<前期>合否判定 事務局提案</p>

		<p>2.報告事項：</p> <p>(1)学年暦案について</p> <p>(2)大学院進学希望者ガイダンス実施報告と今後の予定</p> <p>(3)スクールフェアでの海外 ST 発表について</p> <p>(4)SUNY の説明会</p> <p>3.ご案内</p> <p>(1)2022 年度 GLA 学部教員 FD 会</p> <p>(2)2 年生の 10 月・11 月の TOEFL 受験と第二回留学オリエンテーションの開催について</p> <p>(3)駐日ウクライナ特命全権大使 セルギー・コルスンスキー氏 特別講演会</p>
2022 年 11 月 2 日(水)	第 7 回	<p>1.審議事項：</p> <p>(1)総合型選抜（後期）ルーブリックについて</p> <p>(2)大学入学共通テスト試験監督の担当について</p> <p>2.報告事項：</p> <p>(1)2023 年度学年暦の検討結果について</p> <p>(2)GLA 運営委員会の運営方法の変更について</p> <p>(3)留学について</p> <p>(4)保護者会について</p> <p>(5)研究演習 - 6 と講読(SOC)（言語・文化とコミュニケーション）の担当変更について</p>
2022 年 11 月 30 日 (水)	第 8 回	<p>1.審議事項：</p> <p>(1)11 月入試合否判定</p> <p>(2)履修免除対象の英語科目について</p> <p>(3)3 年次のキャリアサポートについて</p> <p>2.報告事項：</p> <p>(1)1 月（大学入学共通テスト）・2 月・3 月入試日程の再確認</p> <p>(2)2023～2024 年度の GLA 入門 I・II のコーディネーターについて</p> <p>3.ご案内</p> <p>(1)「2023 年度入学前教育・前期 ASC 学生メンター募集」について</p> <p>(2)入学式の「歓迎のことば」のご推薦</p>
2023 年 1 月 11 日(水)	第 9 回	<p>1.次年度の副学長、学部長、学長補佐の体制について</p> <p>2.審議事項：</p>

		<p>(1)成績優秀者特別奨学金（1期生）の採用枠について</p> <p>(2)SUNY への留学が困難な学生の対応について</p> <p>(3)「グローバル・ディスカバリー（フィールドワーク）」参加条件について</p> <p>(4)神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部運営委員会規則改正について</p> <p>3.報告事項：</p> <p>(1)2月/3月の入試体制について</p> <p>4.ご案内</p> <p>(1)2023年度研究演習Ⅰ決定までの流れの確認</p> <p>(2)神田外語大学平和シンポジウム 2023「あの日から1年～Think and Step to Peace」</p>
2023年2月10日(金)	第10回	<p>1.審議事項：</p> <p>(1)一般入試 入試判定</p> <p>(2)「トライ・外国語」「トライ・ことばと文化」のGLA学部生の履修について</p> <p>(3)留学単位認定案について</p> <p>(4)奨学金の支給について</p> <p>(5)神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部運営委員会規則改正について</p> <p>(6)神田外語大学学則変更について</p> <p>2.報告事項：</p> <p>(1)コメントセッションについて</p> <p>(2)公務員講座を受講しているGLA学部生の現状報告</p> <p>(3)SUNY 留学後のTOEIC受験について</p> <p>(4)GLA キャリア・メンターの増員について</p> <p>(5)神田外語大学平和シンポジウム 2023について</p> <p>(6)3月入試の日程確認</p> <p>(7)4月FOCの実行変更点について</p> <p>3.ご案内</p> <p>(1)研究演習Ⅰから研究演習Ⅱで異動を希望する学生について</p>

2023年3月3日(金)	第11回	<p>1.審議事項：</p> <p>(1)一般入試 入試判定</p> <p>(2)留学単位認定の確認事項</p> <p>2.報告事項：</p> <p>(1)学内フレッシュマンオリエンテーションキャンプの開催日時</p> <p>(2)平和シンポジウム 2023</p> <p>3.ご案内</p> <p>(1)その他：英語履修免除の流れの確認</p> <p>(2)その他：ガイダンス日程</p> <p>(3)その他：アドバイザー制度</p>
2023年3月10日(木) (メール審議)	第12回	<p>1.審議事項</p> <p>(1)GLA 学部 2021 入学者の奨学金支給対象者決定について</p>

(2) 教授会における審議・報告事項

開催日	回数	報告・審議事項
2022年4月27日(水)	第1回	<p>報告事項</p> <p>1)名誉教授称号授与報告</p> <p>2)委員会報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>3)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>その他</p> <p>2022 新入生アンケート家庭で話される言語と継承 スペイン語のご案内</p>
2022年6月29日(水)	第2回	<p>報告事項</p> <p>1)名誉教授称号授与報告</p> <p>2)委員会報告</p> <p>①入学試験委員会 2023 年度入学者選抜の実施形式について</p> <p>3)事務局報告</p> <p>①中期経営計画第6 フェーズの公表について</p> <p>②「令和5年度 科研費」「2023年度 神田外語大学 研究助成」について</p> <p>③2022 年度会議スケジュール_3 月末会議日変更 審議事項</p> <p>①2023 年度カリキュラム改定、研究科目再編について</p>

		<p>②外国語学部・国際コミュニケーション学科 基本的な方向性</p> <p>人事案件</p> <p>1)2022年度神田外語大学副学長の教授職任用について</p> <p>2)2022年度教養教育非常勤講師の新規任用について</p>
2022年7月27日(水)	第3回	<p>報告事項</p> <p>1)委員会報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>①入学試験委員会 2023年度入試について</p> <p>②研究助成委員会 2023年度 神田外語大学研究助成の公募について</p> <p>2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>①教員業績公開・管理システムについて</p> <p>審議事項</p> <p>①2023年度カリキュラム改定に伴う英語科目履修基準変更について</p> <p>②2023年度カリキュラム単位数改定について</p> <p>③2023年度カリキュラム改定表について</p> <p>④ 新旧カリキュラム科目対照表について</p>
2022年9月28日(水)	第5回	<p>報告事項</p> <p>1)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>①外国語学部でのiPad購入のPC Mac購入への変更について</p> <p>②入学試験期間の入構制限について</p>
2022年10月26日(水)	第6回	<p>報告事項</p> <p>1)委員会報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>①教務委員会 2022年度前期授業アンケート・フィードバック結果</p> <p>②FD委員会 2022年度FD講演会</p> <p>2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>①11月5日に保護者懇談会を対面形式で実施するとの報告</p> <p>審議事項</p> <p>①2023年度入試判定について(総合型選抜<前期>入試)</p>
2022年11月30日(水)	第7回	報告事項

		<p>1)委員会報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>①教務委員会</p> <p>1)2023 年度学年暦について</p> <p>2)2023 年度シラバス執筆依頼</p> <p>②3 ポリシー策定作業部会(カリキュラム改定委員会)(説明省略、資料掲載のみ)</p> <p>1)外国語学部3つのポリシー</p> <p>2)外国語学部カリキュラムマップ</p> <p>審議事項</p> <p>①2023 年度入試判定について(11 月入試)</p> <p>②2023 年度授業形態について</p>
2022 年 12 月 21 日(水)	第 8 回	<p>報告事項</p> <p>1)委員会報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>①入試委員会 2023 年度共通テスト、一般入試の試験監督委嘱について</p> <p>②研究助成委員会 2023 年度神田外語大学研究助成 審査結果について(説明省略、資料掲載のみ)</p> <p>2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>①2023 年 全学教員連絡会のご案内と賀詞交歓会の日程変更について</p> <p>審議事項</p> <p>①新学部の設置に関する 2022 年 6 月 29 日教授会決定事項の一部変更と新学部の構想(キャンパスおよび定員)について(案)</p>
2023 年 1 月 25 日(水)	第 9 回	<p>報告事項</p> <p>1)委員会報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>①入学試験委員会 2023 年度入学者の選考について(外国人留学生特別選抜入試)(資料掲載のみ)</p> <p>②学生委員会 2023 年度フレッシュマンオリエンテーションキャンプ学科・専攻別実施日程(資料掲載のみ)</p> <p>③FD 委員会 2023 年度授業評価アンケートを活用した授業改善サポート制度概要</p> <p>2)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>①名誉教授最終講義のお知らせ</p> <p>②第 17 回ホームカミングデーのお知らせ</p>
2023 年 2 月 10 日(金)	第 10 回	報告事項

		<p>1)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>①令和4年度学位記授与式の概要説明</p> <p>②令和5年度コロナウイルス感染症予防対策</p> <p>③2022年度「個人研究費」「大学研究助成」証憑書類の提出期限について</p> <p>審議事項</p> <p>1)2022年度入学者の選考について(共通テスト利用入試前期<2科目><3科目><4科目>・共通テストプラス入試・一般入試前期<A日程><B日程><C日程>)</p>
2023年3月3日(金)	第12回	<p>報告事項</p> <p>1)事務局報告(口頭による補足説明事項)</p> <p>①令和5(2023)年度科研費審査結果、令和6(2024)年度科研費公募スケジュールについて</p> <p>審議事項</p> <p>1)2023年度入学者の選考について(外国語学部およびGLA学部・共通テスト利用入試後期2科目・3科目、一般入試後期試験)</p> <p>1-1)一般入試後期の合否判定について</p> <p>1-2)共通テスト利用入試後期2科目の合否判定について</p> <p>1-3)共通テスト利用入試後期3科目の合否判定について</p> <p>2)2023年度入学者の選考について(外国語学部およびGLA学部・一般入試前期第2回追加合格)</p> <p>3)2024年度12月入試の導入について</p> <p>4)2025年度入学者選抜一般入試<前期>における3科目型の導入について</p> <p>5)2022年度第2回卒業判定および各課程修了者について</p> <p>6)2022年度第1回進級判定について</p>

4. 施設・設備について

本学部設置に伴う研究室・教室等の施設・設備については、「設置の趣旨等を記載した書類」の「(2) 校舎等施設の整備計画」に次のとおり記載している。

教室の確保については、本学部新設に伴う定員増は行わないことから、2019年度における教室数に対する曜日・時限ごとの教室使用状況により、新学部稼働後も充足すると見込んでいる【資料6】。このことから、校舎の新築は行わず既存校舎（3号棟）の改修によって、本学部のため、60人の教室1室と30人の教室2室を確保する。また、一部使用が集中する状況にある曜日・時限については、教員の協力を得て調整を行うなど改善を図っていく。

3号棟の一部改修により、新任教員の研究室、及び共同研究室を新たに設置することで、教室のほか、学部所属の専任教員に対する研究室及びそれをサポートする事務体制も十分確保できると考えている。

また、国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とする本学は、コミュニケーション能力、問題解決力の養成にも力を入れており、2003年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されたSACLAを発展させたSALC(Self-Access Learning Center)、ELI(English Learning Institute)等の本学が先進的と自負する自立学習施設を整備し日夜充実に取り組んでいる。同時にこれらの能力育成に資するため少人数教室においても、学生用にアクティブ・ラーニングに適する可動型の机椅子の導入を進めている。

(1) 教室等の整備・充実

「自ら体験し」、「問いを立て」、「自ら学び」、「仮説を立て」検証して行く、と言う生涯の学びのサイクルを実践するための学習施設として設置した「GLA Commons」「GLA Studio」では、様々な利用形態による授業や課外活動において活用された。

なお、利用にあたって次のとおり周知している。

GLA Commons・GLA Studio 利用方法について(2023年3月現在)

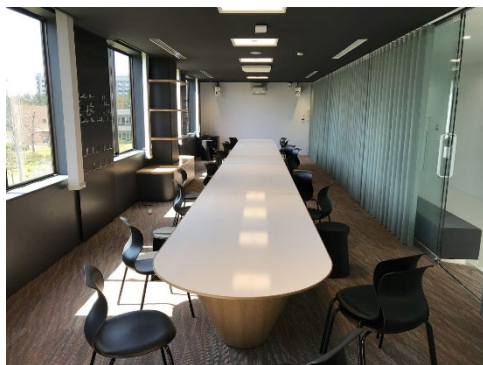
◆GLA Commons◆





- ペットボトルやキャップ付の飲み物等を除き、飲食禁止です。ただし、昼休みの時間帯は飲食可能です。
- GLA Commons の利用時間
他の教室の使用方に準じますが、20:00 には完全撤収してください。
- GLA Commons の予約及び機器利用は、公認団体のみすることができます。
(一般学生、非公認団体はできません)
- 授業中の GLA Commons 内への入室について
対面授業時 : 授業を受講する学生以外は入室不可。
オンライン授業時 : 静かに利用をすることを条件に GLA 及び他学部生の入室可。
ただし、事情により、退室をお願いすることがあります。
- GLA Commons 内設置の学生用プリンターについて
授業中の使用可。ただし、授業に支障がある場合は使用中止をお願いすることがあります。
- Commons 内掲示板について
GLA Office で管理していますので、掲示希望の場合は申し出てください。

◆GLA Studio◆



- ペットボトルやキャップ付の飲み物等を除き、飲食禁止です。ただし、昼休みの時間帯は飲食可能です。
- GLA Commons の予約及び機器利用は、公認団体のみすることができます。(一般学生、非公認団体はできません)

また、本学部の学生に向けて、「2022 年度学生便覧グローバル・リベラルアーツ学部」において次のとおり案内している。

X GLA Commons について

3号館2階に、本学部における教育・学習の中心的な場所として、GLA Commons (3-250)を設置しています。オープンスペースとしても、カーテンの仕切りで区切っても使える空間で、授業だけではなく自習やグループワークなど様々な形態で活用できます。日々の空間内の分けについては、GLA Commons 前に掲示します。利用にあたっては、GLA Commons 内共同研究室 (GLA Office) の職員の指示に従ってください。

<GLA Commons の特徴>

- ・オープンな空間の中に様々な特徴的な場所が存在し、目的に応じて活用できます。
- ・可変性の高い空間で、よりアクティブな使い方ができます。
- ・授業の場であり、学生の日常の居場所でもあります。
- ・Commons のコンセプトを理解した本学の学生・教職員であれば、誰でも使うことができます。

<GLA Commons のコンセプト>

●ACTIVE

- ・アクティブ・ラーニングにふさわしい空間
- ・従来の受動的な教育・学習ではなく、能動的に考え、行動することを促す空間
- ・新たな課題や問題に対して、よりアクティブにチャレンジしていく姿勢が身につく空間

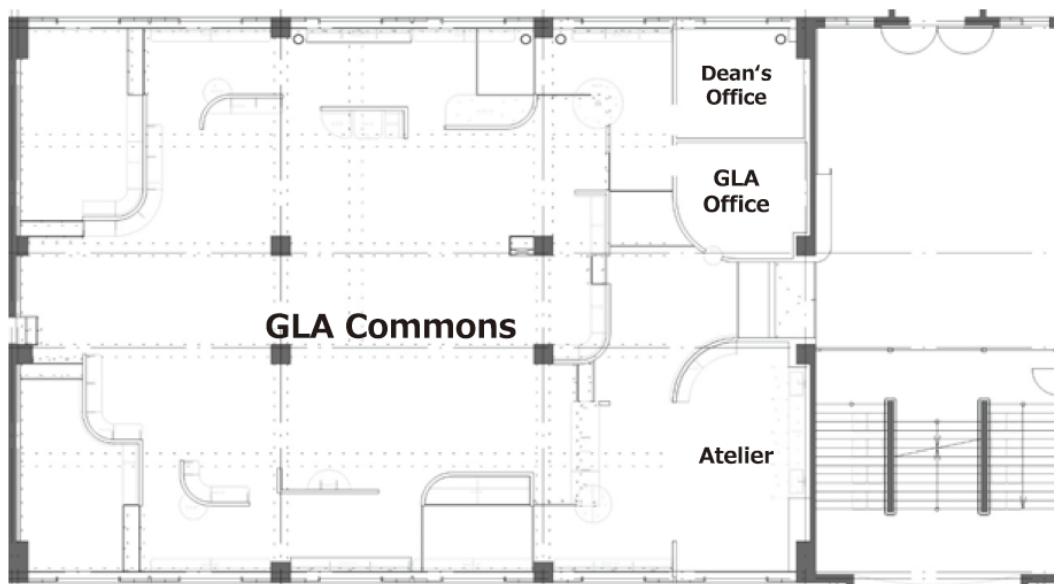
●BORDERLESS

- ・教室という境界をなくし、あらゆる場所が学びの場所となる空間
- ・利用者や使い方を限定しない、開かれた空間
- ・建物やキャンパスを超え、広く世界を意識することができる空間

●CANVAS

- ・自分たちの手で作りこんでいくことができる空間
- ・持続的に使い方や活用の仕方を発見していくことができる空間
- ・そこにいる人、そこを使う人が主役になる空間

<GLA Commons> *3号館2階西側 (KUIS ガーデン側)



(2) 設備・図書等の整備状況

本学部設置に伴う図書等の整備については、「設置の趣旨等を記載した書類」の「(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画」に次のとおり記載している。

なお、本学部の設置に伴い、これまでの言語学や語学教育分野を中心とした資料に加えて、新学部の学修に必要となる国際関係分野の資料の収集に重点を置きつつ一般的な教養分野についても整備をすすめる予定である。特に、データベースでは「Gale in Context: Global Issue」、「Gale in Context: Opposing Viewpoint」、電子ジャーナルでは「Journal of Conflict Resolution」、「Journal of Peace Research」、「International Journal of 24 Law in Context」、「Cultural Studies」などの導入を予定している。

(3) 設備・図書等の整備状況

本学部設置に伴う図書等の整備については、「設置の趣旨等を記載した書類」の「(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画」に次のとおり記載している。

なお、本学部の設置に伴い、これまでの言語学や語学教育分野を中心とした資料に加えて、新学部の学修に必要となる国際関係分野の資料の収集に重点を置きつつ一般的な教養分野についても整備をすすめる予定である。特に、データベースでは「Gale in Context: Global Issue」、「Gale in Context: Opposing Viewpoint」、電子ジャーナルでは「Journal of Conflict Resolution」、「Journal of Peace Research」、「International Journal of 24 Law in Context」、「Cultural Studies」などの導入を予定している。

2022年度中にはSDGsや海外諸国の文化、国際関係を中心に、延べ和書(冊子)150冊、和書(電子書籍)35タイトルを購入し、順次登録ならびに公開を行い学生や教員が利用できるようにした。

Gale in Context: Global Issue」、「Gale in Context: Opposing Viewpoint」の2つのデータベースについては、2021年度当初は一部の教員による利用に留まっていたが、2022年度は授業内での図書館職員によるガイダンスを実施し、より多くの学生に周知し、授業での利用も促進された。あわせて、データベースの利用方法をいつでも確認できるように、ガイダンス動画を制作し図書館ホームページ上に公開した。

(<https://sites.google.com/kanda.kuis.ac.jp/gale-in-context/>)

データベース	内容
Gale in Context: Global Issue	450以上の国際問題、250の国・地域について、地域紛争、経済格差、人権問題、環境問題、難民問題、外交問題、国際経済、価値観の衝突、サイバー犯罪など、国境を超える様々な国際問題の背景について多角的にとらえ、グローバルな理解と考察をうながす。

Gale in Context: Opposing Viewpoint	正答の存在しない 440 以上の社会問題について、賛成・反対など様々な立場からの実際の論説、レファレンス記事、画像、映像、新聞記事、雑誌記事、ラジオ報道、ウェブサイト、統計などをトピックごとにまとめたポータル形式で提供し、多角的な理解と考察をうながす。
-------------------------------------	--